

一國寶本尊阿彌陀如來

一國寶觀世音菩薩

一國寶勢至菩薩

一國寶毘沙門天

一國寶持國天

右明治三十七年九月國寶に指定し大正二年九月修理費として金四千九百七拾

壹圓四拾錢文部省より下附

一國寶唐櫃入一切經

右明治三十三年四月七日内務大臣西郷侯爵は内務省告示第三十二號を以て國

寶の資格あるものと定められ且つ修理費金壹千九拾圓七拾五錢貳厘下附

一明書地藏說法圖

一涅槃像

一弘法大師作不動明王

一三重寶塔

壹

壹體

壹體

壹體

壹體

四千九百七十卷

壹幅

壹幅

壹體

本尊大日如來

一叱枳尼天堂

一聖天堂

本尊豐川叱枳尼天

本尊大聖歡喜天

七寺聖天の靈驗赫々にして諸人の信仰淺からざること遠近之れを知らざるものなし以前は聖天浴油萬人講華水供講等ありしが中古斷絶せしを以て這回之れを再興して普く尊天の利益を蒙むらしむることになれり

一辨天堂

本堂辨財天

辨財天は弘法大師御眞作の靈像にして昔し吉澤檢校なるもの萬人講を組織して例年十月十五日平曲奉彈の祭典を執行し來りしが維新以來寺觀一變し講員も四方に散逸せしを明治二十三年十月此祭典を復興せり

一太子堂

本尊聖德太子

一靈堂

本尊齒佛

長久寺(名古屋市中東區長久寺町)智山派

徳川忠吉が武州忍より尾張に移封の時長久寺唐敝護持僧として扈從して慶長六年清洲に一寺を創立し後に名古屋に移城の際現今の處に移る徳川氏の祈願所にして

密教名刹

堂

東岳山長久寺と號す、尾州智山派總體の談林所にて、移轉地なれば、智山には運徹等山覺遠實因の四代、豐山には快壽卓玄、岳亮貞隆、慶五代の能代、此寺に住せり、其他功雅宥雄、堯雅等著名の學匠住し、新義派史上重要の一寺院なり、開山の法流は意教流にして、連綿現住瀧承天師に及び、既に三十二世を経たり。

地藏院(名古屋區市南區) 豐山派

熱田田中町にあり、花園帝の朝に、鎌倉將軍の御墨附に依り、内幡屋に創立し、金寶山龜命寺と稱せしを、正中元年地藏尊を安置せる故に、地藏院と改稱し、天正二年現在地に移轉せり、是より先元徳二年七月、足利尊氏當寺に宿泊し、後に自畫自贊の地藏尊を納めたるが、當時の尊氏馬上の圖は、國寶の指定を受け、其他古畫等を藏す。

不動院(名古屋市熱田町) 豐山派

熱田神宮寺の後繼寺なり、俗に熱田大藥師と稱す、弘法大師熱田に參籠の時、開基せられ、仁明天皇の朝に、大藏經并に佛菩薩諸天像一千二十八像を熱田社に納め、歷朝尊奉の勅願寺たり、足利氏の末に祝融に罹りたりしが、秀頼公再建せられ、元祿十六年護持

院隆光の請に依て、大に神社と共に興隆せらる、明治維新に際し、神宮寺は廢寺となりしも、當時住亮恕は不動院の名稱の下に、本尊大藥師を守護し奉りたり、此藥師は坐像なれども、總丈二丈一尺八寸にして、其像内には弘法大師御作の同佛を納められ、靈驗最も多く、正月修正會の大藥師鬼祭は一奇習なり。

八事山(愛知郡御器所村) 高野派

遍照院興正寺と號す、天瑞の開山なり、初め和尚諸方に研修し、所願満足すと歡喜し居りし折柄、熱田居士なるもの、其庵を訪ふて曰く、東一里許に所管の山あり、且らく住せよと、和尚山房に入る偶々、府君中納言光友の使來りて云く、道容に謁せんと、即ち登城するに、府君和尚に見え、其の説を聽き、歸敬深く、堂塔を完成せしめ、田を賜ふ、時に元祿元年なり、十年丈六大日尊を鑄て、山嶺に安じ、祖父東照宮の名を手書して佛座に納め、其冥福と國民安寧を祈らる、創立以來二百餘年金容の本尊諸尊傳來の法器等依然として現存せり。

福壽院(中島郡一宮町) 豐山派

本尊十一面觀世音は弘法大師の作、當寺は神龜中行基菩薩の草創せし所にして、弘仁年中弘法大師伽藍を建立せられ、甚だ盛なりしも、其後火災に罹り、文永中空圓上人を興隆して今日に及べり、依て空圓上人を以て中興となす、明治十九年保存金を下賜せらる、又た境内に存する三重塔は特別保護建造物たり。

萬德寺(中島郡山形村) 豊山派

本尊阿彌陀如來は弘法大師作、寺は神護置雲二年、慈眼の草創、弘法大師當山に來りて梵字を營み給へりと云ふ、其後天曆中回祿の災に遇ひ、弘長中常圓堂塔伽藍を建立せられ、其多寶塔は特別保護建造物たり。

性海部(中島郡稻澤町) 智山派

弘法大師熱田神社參詣の時に、愛染明王を彫みて本尊となし、境内中央に塚を築き、聖天を埋められたれば、山號を大塚山と稱す、建長年中良敏上人郡主源政の歸依に依り、本堂多寶塔灌頂堂護摩堂等を建て、龜山帝の時院宣に依りて蒙古退治の祈禱を修行し、其當時の文書を藏す、三十四世良圓は淺野長政の伯父にて、此寺にて長政教育を受けし

と云ふ、天正の頃兵亂に罹りて一山烏有に歸したるも、多寶院のみ免れ、今保護建造物として知らる。

地藏寺(中島郡一宮町) 豊山派

本尊は延命地藏菩薩、寺は聖武天皇神龜五年行基菩薩の草創、嵯峨天皇の御宇鎮護國家の道場となりて、國民の尊信淺からざりしが、其後或は火災或は風難にかゝり、弘長年中空圓中興せられ今日に及ぶ。

甚目寺(海東郡甚目寺村) 智山派

推古天皇吉貴五年、甚目龍磨呂なる者江中より紫金の正觀音を得て、一字を建立して鳳凰山甚目寺と稱す、天武天皇白雉七年勅命によりて堂舎を修理して鳳凰の勅額を給ふ、後幾多の興廢あり、建久七年聖觀七堂伽藍を改めて建立す、明治維新に至る迄三百石の黒印あり、仁王門は建長年間の建造にして特別保護建造物に指定され、國寶として不動尊畫像等あり、境内三千餘坪、巨樹鬱蒼たる間に、幾多の堂塔、隱見し、景致頗る佳なり。

長隆寺(中島郡中島村) 豊山派

光敏親王の第二皇子朗演上人、長和年中に開創する所にして、親王は中島藏人と稱し、當所を領せられたるなり、近時保存金の下賜ありたり。

如意寺(知多郡佐布里村) 豊山派

本尊地藏菩薩は運慶の作、當寺は後鳥羽天皇の勅額所にして、雨寶山如意輪寺と稱し、元暦元年の創立なり、應永中憲譽法印再興したるも、其後兵火に罹り、又た幾多の變あり、明治二十年二月中古堂の故を以て保存金の下賜を受く。

醫王寺(知多郡大井村) 豊山派

本尊は藥師如來、神龜中行基菩薩の開創にして、弘仁五年弘法大師此地に遊び、暫く當寺に留錫し、興隆佛法の祈請を凝らされしかば、大師入定の後、祖師堂を建て、大師を以て中興開山とせり、寛永十一年本堂祖師堂を改築し、以て今日に及べり。

大御堂寺(知多郡野間村) 豊山派

本尊阿彌陀如來は行基菩薩作、當寺は白河天皇の勅願所にして、源義朝の墓あり、建久年中源頼朝菩提の爲めに伽藍を再建したり、慶長中家康二百五十石の朱印を與ふ、近年は大に衰へたれども、保存金の下附等ありて古刹の面影を存せり。

福生院(名古屋西區袋町) 智山派

寶徳三年達算寺第五世順譽上人、足利持氏の歸依に依り、坊舎を知多郡中村に創立し、清洲城の名古屋に移轉せし後、元和二年住僧宥傳寺宇を今の地に移し、大に興隆せり、因て宥傳を中興とす、其聖天は靈驗新たにして、日夕詣者市を爲し、繁榮他に比すべし、なし。

犬御堂(名古屋東區古渡町) 智山派

聖武天皇之御宇、神龜三年行基菩薩の創立にして、光明山遍照院と云へり、其後嵯峨天皇の御宇、弘仁九年三月弘法大師御修行の際、庶人結縁の爲め、御自作之尊像を安置し給へり、壽永二年二月高野山之僧無觀上人、諸國を行脚し、此地に來り、身心疲勞して、今や息絶んとせしに、黑白二疋の犬來り、草の葉に水を浸して、僧の口にそゝぎしかば、忽

ちに蘇生しぬ昔し弘仁年中弘法大師初て高野山に攀登し給ふ際、黑白の二犬來りて先導せし因縁もありて犬は高野大明神の使者なれば、是れ偏に明神の守護なりければとて、最悦びて其犬を養けるに或夜の夢に本尊阿彌陀如來上人の許に來迎し給へるに、かの黑白の兩犬尊像の兩脇に在しと見て夢さめぬ、其後犬は行方しれずなりしかば、茲に本堂を再建して本尊並に黑白二犬の姿をうつし之を安置せしを以て犬御堂と稱す、其後寺號を法淨寺と改め、大須北野山寶生院の末寺となる、寛文四年尾張公手飼の犬を引俱して遊獵の折柄疲勞の餘り木蔭に休憩し給ふに、其犬急に吠かゝり衣をくはへて引しかば、從者之を見て君を害するならむと思ひて、刀をぬいて切り捨てければ、犬の首樹梢に飛て大ひなる蛇を喰殺して落したり、されば犬の己を救はんとせしを殺したるを悔て、誠に奇異に思召され、所の老翁に問ひ給ふに、弘法大師の遺跡なることを上申しければ、感悦ましまして本堂庫裡門高塀に至る迄、御造營御寄附相成御領分中永代毎年勸化御免下し置かれ、君公御他界の後、後室梅昌院殿より田所祠堂金等御寄附相成たる格別の由緒あり昔より靈驗著しるしきを以て名あり。

因に現住松波實明師は護法の志厚く、又公共の事に力を盡し、四恩會を設けて法鼓を鳴らし、幼稚園、皇道會等にも、大に幹旋せられ居れりと云ふ。

藥師寺(丹羽郡) 豊山派

天平六年行基菩薩の創立する所にして、寛永年中玄瑜之を再興せり、其聖天堂は古建築にして、近時保存金の下賜ありたり。

其他の名刹

古 義

豊橋市瓦町	高野派	不動院	南設樂郡鳳來寺村	同	鳳來寺
八名郡八名村	同	富賀寺	石卷村	同	赤岩寺
八名村	同	澗雲寺	渥美郡杉山村	御室派	長仙寺
二川町	高野派	普門寺	東賀茂郡阿摺村	同	淨妙寺
西加茂郡小原村	同	藥師寺	同	同	觀音寺
額田郡岡崎町	醍醐派	光明院	豊富村	高野派	櫻井寺
寶飯郡八幡村	同	財賀寺	西浦村	同	無量寺
名古屋市西區紙漉町	同	堪忍堂	中區南伏見町	同	大師寺

東區二葉町 同 清瀧寺 愛知郡豐明村 同 高德院
御器所村 同 地藏堂

新義

名古屋市新出來町 豐山派 東界寺 袋町 同 延命院
同 同 醫王寺 熱田町 同 蓮華院
同 同 實相院 同 彌動院
同 同 海上寺 同 遍照院
同 同 寶光寺 同 安養寺
同 同 觀音寺 同 萬德寺
同 同 安樂寺 同 無量光院
丹羽郡三重島村 同 眞珠院 海東郡蜂須賀村 同 長福寺
新居屋村 同 法性寺 知多郡佐賀里村 同 正法院
新知村 同 妙樂寺 野間村 同 大御堂寺
同 同 密藏院 同 同 同 同 持寶院

同 同 如意輪寺 大井村 同 北宗院
須成村 同 智山派 新照院 蜂須賀村 同 蓮華院
津島町 同 寶壽院 大治村 同 自性院
神守村 同 吉祥寺 押切町 同 福壽寺
長文寺町 同 善福院 甚目寺村 同 法花院
神守村 同 光明寺 中島郡平和村 同 長福寺
大里村 同 植林寺 千代田村 同 長曆寺
明治村 同 大願寺 愛知郡荒子村 同 寶珠院
笠寺村 同 東光院 同 同 西方院
同 同 西福院 同 同 泉藏院
熱田町 同 喜見寺 同 同 東福寺
知留旭村郡 同 大智院 同 同 地藏寺
大野町 同 寶藏寺 同 同 觀音寺
丹羽郡城東村 同 寂光院 同 同 密嚴院
西春日井郡楠村 同 護國院 同 同 常光院

密教名刹

東春日井郡小牧町	同	戒藏院	清洲村	同	眞福寺
味岡町	同	小松寺	額田郡岡崎町	同	貞壽寺

静岡縣

大福寺(引佐郡西濱名村) 高野派

清和天皇の勅願所にして、貞觀十七年敎待和尚の開基、本尊藥師如來は理趣仙人の作、當寺古來納豆を傳製し、皇室及徳川家へ進献するを古例とせし爲め、納豆の除地を賜りたり、是れ濱名納豆の根元なり、寺は濱名湖岸にありて風景佳絶、詣者絶えず、絹本着色普賢十羅刹天女一幅、渡金装相木地爲一個及び延喜年間に於ける當寺記録二卷は、國寶に指定せらる。

油山寺(磐田郡久野村) 智山派

近來朱印田高四十七石、本堂は天野氏の重修にて、三重塔は慶長年中久野氏の再修せる所なり、往古此山に油水の漏出せる事あり、これに依て油山寺と號し、藥王山と稱す、近時大竹僧正在住の頃川崎大師河原平間寺より投資して、堂宇の興隆を爲し、大に輪

奘の美を盡せり、山林を數多所持し、禪の可睡齋と相接し、大に偉觀を極む。

頭陀寺(濱名郡芳川村) 高野派

大寶年中圓空上人の草創する所にして、本尊藥師如來は海中出現の靈軀なり、貞觀五年定額に列せられ、天正十八年豊公寺領貳百石を當寺に給し、慶長八年徳川家康より貳百石の寺領を得、其後延寶年間の火災、嘉永七年の震災、其他水害等に罹り、大破に及びたるを、明治十一年現住眞應の努力に依りて漸く再興せり。

大日寺(周智郡三倉村) 御室派

靈是山金剛院と稱す、本尊大日如來は行基菩薩の作、中古戰國の世屢々兵火に罹り衰頽を極む、元和年中矢部定政當寺を以て祈願所となす、今も猶ほ祈禱寺として駿河遠江三河の諸國に亘りて多くの信徒あり、國內有數の寺なり、明治四十年祝融の災に罹りたるも、殿宇庫裡は再建したり。

尊永寺(山名郡笠西村) 高野派

一山惣號を法多山と號し、十二ヶ寺惣持號を尊永と稱す、聖武天皇の神龜年間勅を奉じて行基菩薩の開基する所なり、白河天皇及び後白河天皇の勅願所たり、舊朱印高二百五石、外に境内東西五十町南北十町あり、舊記寶物等を多く藏せり。

願成就院(田方郡 葦山村) 高野派

葦山の麓に在り、大御堂と號し、金鵲林寺とも呼ぶ、天平年中聖武天皇の御草創と傳ふ、本尊の品合體の阿彌陀、觀音、勢至の三尊は、行基菩薩の作にて、永曆元年源賴朝再興す、今は僅に御堂厨子を存するのみ。

西樂寺(周智郡 守野村) 智山派

本尊は阿彌陀如來にして、智積院直末、前記油山寺等の本寺にして、智山談林なり、中興より現住高木陽範に至るまで二十四世を經たり。

其他の名刹

古 義

田方郡熱田町	高野派	一般若院	三島町	同	藥師院
中郷村	同	泉福寺	加茂郡下田町	同	長樂寺
静岡市南安東町	同	清水寺	駿東郡鷹根村	同	光嚴寺
同	同	廣大寺	同	同	大儀寺
清水村	同	蓮華寺	富士郡加島村	泉涌寺派	源立寺
庵原郡高都村	高野派	靈山寺	志太郡島田町	泉涌寺派	洞源寺
藤枝町	高野派	鬼岩寺	同	同	清水寺
大津村	泉涌寺派	慶壽寺	小笠郡土方村	高野派	今龍寺
河城村	同	潮海寺	上内田村	同	岩井寺
周知郡氣多村	醍醐派	戒心院	三倉村	御室派	金剛院
磐田郡笠西村	高野派	一乘院	池田村	同	西法寺
濱名郡新居町	同	應賀寺	濱松市新禪寺町	同	龍禪寺
東鴨村	同	鴨江寺	同	同	快眞寺
濱名郡赤佐村	同	岩永寺	芳川村	同	頭陀寺
成馬村	同	常樂寺			

新義

磐田郡御厨村

智山派

醫王寺

山梨縣

法善寺

(中巨摩郡三惠村)

高野派

加賀美山無量壽院法善護國寺と稱す、往古は法相宗にて、武川筋武田郷にありたり、寺僧神徳なる者弘法大師の弟子となりしより、眞言宗に轉せしと傳ふ、宇佐八幡を此地に勸請して武田八幡と云ひ、其本地を阿彌陀如來とせしより、無量壽院と稱し、八幡社の別當に任じ、諸帝より祈願の宣旨を賜りたり、其後甲斐守頼信八幡宮の神威に依りて、武勳を建て武田氏を以て氏となし、當寺を祈願となせしが後に廢頽せしを新羅三郎の曾孫加賀美次郎遠光之を再營し、其姓氏を以て山號とす、遠光の孫遠經今地に移し香花院と定め承久三年高野山より覺應を屈請し諸伽藍を造營し、武田信玄に至て大破せるを修理したり、天正の兵火に罹りたるも、後徳川氏より九十九石及境内を寄附せられ、十五世光海は家康の知を辱ふせるを以て寺門大に榮へ、當國の取締たり、明

治維新に際して八幡別當職を解きたるも、現今尙八ヶ寺の末寺を有し、法燈現住に至るまで四十代なり、建長八年武田信長の寄附せられたる騰本大般若經は今國寶に編入せられたり。

福光圓寺

(東八代郡竹野原村)

大覺寺派

聖徳太子の創立なり、保元二年大野對馬守重包實安を屈請して中興の開山と爲す、當寺第三十二世權僧正實慧は武田信玄の歸依する所となり、寺領二百三十七貫五百文及び佛具法衣寶劍等の寄附を受けたり、古は駒嶽山大野寺と號せしも、中古に至りては大野山華乘院福光圓寺と改む。

放光寺

(東山梨郡松里村)

智山派

高橋山と號し、安徳帝壽永二年安田遠江守義定の本願に依て建立、賀賢を開基と爲す、塔頭十二の坊舎境内に林立し、峽東の巨刹たりしも、天正十年織田氏の兵燹に罹り、堂宇悉皆烏有に歸したりしが、今は漸く舊に復するを得たり、本尊木造大日如來及び同不動明玉同愛染明王の三尊は近時國寶に指定せらる。

大善寺(東山梨郡 勝沼町) 智山派

近世寺領三十二石山林廣し、金堂方十四間六百年前の建造にして、保護建造物なり、多く古文書を藏し、甲州第一の古刹に推さる。

慈眼寺(東八代郡 一宮村) 智山派

文明の比有日の中興にして、第七世尊長は信玄の歸依を受けて、川中島戰爭に従軍祈禱し、第十一世有眞は大に寺門を興し、其弟子宥鏝は智山能化に晋めり、現住まで廿七世なり、信玄勝頼の古文書を藏す。

其他の名刹

古義

南都留郡秋山村	高野派	吉祥寺	西八代郡市川大門町	同	福壽院
同	同	金剛院	同	同	寶壽院
上野村	同	藥王寺	同	同	光勝寺

新義

山梨縣山梨郡神金村	智山派	福藏院	諏訪村	同	圓照寺
松里村	同	龍光院	竹原村	同	福光圓寺
南巨摩郡増穂村	同	明王寺	東山梨郡岡部村	同	大藏經寺
同	同	妙嚴院	中臣摩巨郡岡部村	同	長太寺
西山梨郡大宮村	同	鹽澤寺	北都留郡賑岡村	同	眞藏院
東八代郡左右口村	同	圓樂寺	富士見村	同	願昌寺

長野縣

牛伏寺(東筑摩郡 片丘村) 智山派

厄除觀音靈場金峯山普賢院牛伏寺と稱し、本尊厄除十一面觀世音菩薩脇立不動明王、

毘沙門天なり、當山は聖德太子御年四十二歳の時、自他厄除福壽増長の御誓願遊ばされ、親ら等身の十一面觀世音菩薩尊像を彫刻し給ひ、勝縁の地たる我鉢伏山上に堂を建立して安置せられ、普賢院と稱し給ふ、其後唐の玄宗皇帝親書紺紙金泥大般若經を天平勝寶七年我國善光寺に納めんとするや、荷經の牛此の地に斃る、來使佛意の然らしむる處となし、當山に納經し、斃牛を山籠に埋め歸る、依て牛伏寺と通稱す、爾來泉長者小二郎親衡、源豐重、波多腰大和守清勝、小池左馬亮信源、武田道遙、軒小笠原秀政、源忠晴等代々の領主尊信供養淺からず、靈光赫々として牛伏厄除觀音と唱ひ、衆庶仰信頗る篤く、南信第一の靈場勝域たる事茲に一千余年、智山常法淨梵たり、毎年一月七日追儂祭同十六日厄除會には、誠に參詣の善男善女萬余人を算す、現在建物は本堂、太子堂、十王堂、藏王堂、客殿、方丈、庫裏、仁王門、寶庫、其他十數棟にして什寶の重なるもの如左。

- 聖德太子等身厄除十一面觀世音菩薩
- 同 上
- 脇立、不動明王、毘沙門天
- 同 上
- 藥師如來
- 同 上
- 釋迦如來、脇侍文殊、普賢兩菩薩
- 同 上
- 大威德明王
- 同 上

以上木造佛八軀共に國寶に指定せられたり。

- 唐本大般若經玄宗皇帝親書紺紙金泥
- 燒殘數冊
- 弘法大師親筆經文
- 一 卷
- 後柏原天皇御詠歌震筆
- 一 軸
- 泉長者小二郎長太刀
- 一 腰
- 古例祭追儂面
- 二 面

當寺は智山現宗務長宮本僧正の住地にして、中興寶淳より十九代を經たり。

清水寺(高井郡保科村)智山派

天平十四年行基菩薩の創立にして、本尊千手觀音は行基の作なりと傳ふ、左には不動明王を安じ、右に聖觀音菩薩を安ず、坂上田村麿奥州逆賊を征伐し、凱旋の後戰利品を納め、大同二年伽藍を建立して、觀音の諸堂伽藍を復興す、現在の大日堂は保護建造物にして、安置の大日如來四天王は國寶に指定せられたり、尙特に茲に記すべきは、田村將軍の冑は實に世に珍らしきものにして、先帝明治天皇陛下、桃山御陵の四方に鎮護の武器を埋むるに際し、特に該冑を模型とせられたり、當寺は追て數萬の資を投じて

改築すべく、目下其準備中なり。

開善寺(埴科郡西條村)智山派

金剛樹山清花院開善寺と稱す、清和天皇の皇子滋野親王、信濃國に下向せられ、眞田家の祖となり、晩年眞言宗に歸し、落飾して開善寺殿と稱し、等身の地藏尊を彫みて安置す、是れ當寺の本尊なり、此故を以て代々眞田家の祈願所となり、眞田昌幸上田築城の時は山口村に寺基を定め、眞田家松代城へ轉動と共に、今の西條村に移り、尊海を中興の祖となす、第二世貫翁の時に、大和國內山永久寺の客未となり、金剛王院流を相承し、現住に至るまで二十世を経たり。

文永寺(下伊那郡久伊那村)智山派

南原山密乘院と號す、龜山天皇の御宇、惡疫の流行甚しく、此事天聽に達し、文永二十年隆毫に勅命ありて、一字を建立せしめたり、之れ即ち當寺なり、即ち常曉律師の筆に成る五大明王の像を賜はり、本尊と爲す、後奈良院の朝には、特に宸翰を下され、今に傳ふ、慶安二年大猷院より朱印七十石を給せられ、以て明治維新に及べり、明治四年諸堂を

再建せり。

長勝寺(更級郡豊山村)豊山派

郷士大日方勘助なるもの、秀慶法師に歸依し、同師を屈請して開く所なり、弘法大師作の仁王尊を安置し、近時保存金を下賜せられたり、當寺は豊山派前宗務長現武州中野町寶仙寺山主富田僧正發祥の地なり。

其他の名刹

新義

上高井郡日瀧村	豊山派	蓮生寺	更級郡信田村	同	專照寺
榮村	同	觀音寺	大岡村	同	高嚴寺
上水内郡南小川村	同	金剛寺	北小川村	同	高山寺
津和村	同	玉泉寺	埴科郡屋代町	同	法華寺
寺尾村	同	福德寺	東筑摩郡錦部村	同	洞光寺
小縣郡殿城村	同	瀧水寺	南安曇郡西穂高村	同	滿願寺

密教名刹

東筑摩郡今井村	智山派	寶輪寺	廣丘村	同	郷福寺
鹽尻村	同	常光寺	朝日村	同	古川寺
濱丘村	同	常光寺	壽村	同	弘長寺
同	同	王德寺	洗馬村	同	真正寺
鹽尻村	同	靈泉寺	同	同	永福寺
里山邊村	同	鬼川寺	西筑摩郡檜川村	同	觀音寺
諏訪郡四賀村	同	佛法紹隆寺	平野村	同	照光寺
豐平村	同	眞德寺	湖南村	同	善光寺
玉川村	同	長圓寺	長地村	同	平福寺
中州村	同	小泉寺	本郷村	同	高榮寺
川岸村	同	昌德寺	上伊奈郡高遠町	同	樹林寺
伊那富村	同	香住寺	東箕輪村	同	日輪寺
同	同	無量寺	朝日村	同	高德寺
中箕輪村	同	西光寺	伊那村	同	龍海寺
手良村	同	宗明寺	下伊奈郡下久堅村	同	文永寺

山本村	同	光明寺	北安曇郡中土村	同	神宮寺
社村	同	盛蓮寺	南佐久郡前山村	同	前山寺
同	同	仙翁岸	岸野村	同	寶藏寺
同	同	多福寺	野澤町	同	藥師寺
同	同	專立寺	大澤村	同	長命寺
穗積村	同	善福寺	櫻井村	同	延命寺
中瀬村	同	小林寺	田口村	同	觀音院
小海町	同	妙音寺	北佐久郡小沼村	同	眞樂寺
小諸町	同	成就寺	協和村	同	福王寺
蘆田村	同	正明寺	中佐都村	同	正法寺
御代田村	同	寶珠寺	内山村	同	圓藏寺
小沼村	同	長泉寺	南大井村	同	光明寺
志賀村	同	法禪寺	岩村田町	同	長福寺
同	同	圓滿寺	東長倉村	同	寶性寺
小縣郡福澤村	同	長命寺	西鹽田村	同	前山寺

密教名刹

同	同	中禪寺	和田村	同	菩薩寺
上田町	同	海禪寺	同	同	宗呼寺
長窪新町	同	觀音寺	富士山村	同	西光寺
武石村	同	妙見寺	東鹽田村	同	長福寺
泉田村	同	高仙寺	城下村	同	極樂寺
下高井郡中野町	同	如法寺	同	同	南照寺
上氷内郡長沼村	同	靈山寺	更級郡鹽崎村	同	長谷寺
綿内村	同	蓮台寺	更科村	同	明德寺

神奈川縣

大山寺(中山郡)高野派

大山山中に在り、其主坊を明王寺と稱す、大山寺は一山總稱なり、俗に大山石尊、又は石尊大權現と云ふ、往昔山巔に五色に彩色せる石の不動明王、地より湧出せりと傳ふ、天平勝寶七年良辨の開基にして、鎌倉の願行上人之を中興し、本尊を彫み殿堂を建立す、後觀應三年足利尊氏丸島郷を寄附し、小田原北條氏は百七十八貫文を納め、慶長十年

實雄德川幕府の命に依て雜輩を退去せしめ、十五年百石の黒印を賜ひ、寛永七年に至りて幕府諸堂を修營す、今は七坊を有するのみ、全山元と境域たりしが、維新後雨降神社と別立し、最近に於て神社と葛藤を起し、所謂大山山林事件にて、神職の犯罪を見るに至りしことあり。

補陀落寺(鎌倉郡)高野派

材木座に在り、南向山歸命院と號す、養和元年文覺の開基源頼朝の建立、本尊十一面觀音は行基菩薩の作、不動尊は智證大師、藥師如來は運慶の作と云ふ、觀應中鶴岡の供僧頼基の中興なり、堂舎は天明年間に大破し、其後文化年間及明治五年に焼失したるが三十四年に至りて現住智全本堂庫裡を再建せり。

平等寺(中郡)東寺派

醫王院と號す、本尊は等身の藥師如來にして、行基菩薩の作、東鑑に建久三年八月九日の條に豊田平等寺とあるは當寺を指すものなり、惜哉德川四代の頃、近くは明治四十年の冬、類焼に罹り、僅かに本尊と古梵鐘とを除くの外悉皆、烏有に歸したり。

稱名寺(久良岐郡金澤村)律派

眞言律宗、神奈川縣久良岐郡金澤村にあり、有名なる金澤文庫のある寺なり、文永六年に北條實時入道して審海の弟子となり、正慧と稱し、金澤に別莊を構へて稱名寺殿と稱し、實時の本願にて審海を開山とし、龜山帝の勅願所として、實時の子顯時の建立する所なり、其後顯時貞顯貞將の四世相繼て當寺に居り、文學の書を集め、乃ち金澤文庫の源をなせり、當時貳千石の朱印を領せるも、徳川氏に至て百石に減せられたり、當寺の三世湛叡は碩學して釋論教理鈔の著あり、其後も學者相繼て住せり、國寶に實時貞將の畫像及湛叡の結界圖あり。

覺園寺(鎌倉郡鎌倉村)泉涌寺派

新志に鷲峯山覺園寺眞言院は、永仁四年北條貞時の建立にして、本尊藥師如來、日光月光十二將脇侍す、今四宗兼學、寺領七貫文と見へたり。

證菩提寺(鎌倉郡本郷上の村)高野派

五峯山と號し、無量寺とも云ふ、本尊は阿彌陀如來なり、建久八年建立、建保四年相州時頼眞田與一義忠が追善を修し、建長二年修理すと、往時は盛榮なりしが、近世大に頽廢し、僅に佛宇を存するのみ。

西明寺(橋樹郡中原村)智山派

最明寺入道時頼武藏國有馬郷に伽藍を建立して最明寺と稱し、自ら壽像を彫み、頼朝の守本尊たる大日如來と共に安置せるを、故ありて今の地に移し、最明と西明と相通ずるを以て今の名に改む、當地は家忠の小松御殿を建立せし所なり、本寺にして大師河原之を管し、岩谷師寺務を執り、大に頽勢の挽回に勉めつゝあり。

平間寺(橋樹郡大原村)智山派別格大本山

崇徳天皇の御宇、大治の頃、八幡太郎源義家公の麾下に、平間兼豊、兼乘といへる父子あり。前九後三の役に従ひ、軍功あり。股肱の臣と稱せらる。功を以て邑を尾張に食む。既にして同班の猜忌に觸れ、冤罪を蒙り邑を失ひ、關東に流浪する境界となり、父子は武州海濱に零落して漁獵をなし、纔に生計を營みしが、父兼豊は故人となられ、兼

乘も初老を超え、世俗に恐るゝ四十二歳の凶厄を迎へけり。兼乗人となり正直にして、夙に弘法大師の尊信深かりしが、爰に一層の信念を勵まし、専ら業障消滅を祈りつゝありしに、不思議なる哉、此浦の海上に夜々光明を放ちければ、浦人も奇異の思をなして、互に語りしが、一夕兼乗の夢に、一人の高僧來りて、告げて曰く、吾は日本國眞言開宗の大師なり。そのかみ、大唐にありし日、厄除の自像を刻み、之れを海中に流し、末代有縁の衆生を利益せんが爲に、此大誓願を起したり。今汝三寶に信念篤し、急ぎ海上光明のある所に網を入れ、其像を安置して、信仰を懈るなくば、汝が現厄は速に消滅し、當來かならず都卒に往生すべし。此像に宿縁ありと、靈告ありければ、兼乗翌朝全身を澡浴し、心に祈願し、例の如く海邊に出て、見れば、光明赫奕として、毫も夢中に違なければ、急ぎ舟に掉さし、かの光明の處にいたりて、心中に深く大師を念じ奉りて、一網打入れて、引揚見れば、一個の木像網にかゝりて、而も光明を放ちければ、いよゝゝ不思議の事に思ひ、則ち自宅に持歸りて、淨水もて之を洒ぎ、淨几の上に安置して、香華など供へ奉り、謹て之を拜し奉るに、かねて其信ずる所の弘法大師にして、昨夜夢に見えたりし、彼の高僧の相好に寸分かはることなかりしかば、兼乗信心肝に銘じ、感涙とどまらず、是より宅邊に小堂を構へ、朝夕に供養怠りなかりしが、其頃高野山の尊賢上人

といへる大徳あり。生國は京都にて、其弟某の娘は、中納言藤原長實に仕へて、美福門院の乳母たり。尊賢上人は、新義眞言の開祖。興教大師と同學の名徳なりしが、大治三年四月の頃、此里に遊化し、兼乗が家に宿し、彼尊像の因縁を聞き、其靈威を尊び、遂に兼乗に力を戮せ、いさゝかの蘭若を創立し、天承元年四月廿一日堂宇落成せしかば、名づけて金剛山金乗院と號し、本尊を厄除大師と奉稱す。其の本願兼乗の信力に出たるを以て、世人稱して平間寺といひ、又大師出現の地なるを以て、後世此浦を大師河原といふ。兼乗長承三年二月に至て、彼冤罪雪白して、再び尾張の本國に歸任せんとするや、報恩のため、俸祿の半を割き、寺封に施入し、永世香火の資とせられたり。かくて尊賢上人は此事を、鳥羽上皇に奏しければ、謁見を許され、且つ上皇門院の災厄消除の祈念を令し賜ひ、又皇嗣を求むるの祕法を修さしめ玉ふ。其後感應虚しからず、門院は近衛帝を誕じ玉ひしかば、是れ全く厄除大師の冥應なりと、九重の信念、いよゝゝ深く、永治元年、近衛帝登祚し賜ひ、門院の威勢ますゝ盛なりければ、終に上皇に奏し賜ひて、其年の十月五日、阿野參議藤原某朝臣の兩人に勅し、勅願寺の宣旨あり。且つ香燈資料若干を賜ひ、尊賢阿闍梨を上人位に叙し玉ふ。また門院は、尊賢上人の懇請により、化粧の紅を以て、寺の縁起を書せ賜ひ、遂に是寺へ贈らせ玉ふ。是れ當山第

一の重寶にして、美福門院の紅縁起と稱する、世々相傳の珍書なり。其後數百年を経て、寺門に變遷ありと雖も、本尊の威徳に損滅あることなし。安永天明の頃に、隆範阿闍梨といへる高僧あり。武州入間郡入會の人にて、大に當山の興隆を企圖し、寺格を改め醍醐三寶院宮の院家を兼帶し、菊桐の章を佩ぶ。尋て隆盛和尚本堂を再建し、隆珊和尚書院庫裡を改築せられ、隆健僧正に至て境内を擴張し、新道路を通じ、不動堂山門を新築し、公園を設置せられ、現住隆運に至り、益々規模を擴張し、靈場は益繁昌して、伽藍の壯嚴次第に増加し、今や京濱間の名區たるのみならず、關東屈指の一大參詣所と稱するに至れり。

伽藍の概要

○山門 は、明治廿二年時の住職深瀨隆健僧正發願着手し、後住佐伯隆範僧正及び現住佐伯隆運僧正代(三十四年)に全く竣工す、此山門の建設は、同寺本堂建立以來の偉業にして、費額拾五萬八千圓を要し、就中階上の匾額金剛山の文字は、故 有栖川煥仁親王殿下の御染筆にして、階下平間寺の額は、侍從長徳大寺實則公の揮毫なり、其美觀彫刻、實に關東の壯觀たり。

○不動堂 は、明治二十三年前々住隆健僧正代の建築にして、下總國成田山新勝寺の不動明王を分體安置せし者にて、平間寺へ參詣の者成田山不動尊へ參拜せしむる趣旨にして、彼成田山にも、平間寺厄除弘法大師を安置せる大師堂あり。

○生玉庵 不動堂の西南にあり、隆珊和尚菟裘の地にして、隆基、隆健兩僧正相尋て隱栖し玉ふ、泉池臺榭幽美を極む。

○大師公園 隆健僧正代、新境内一萬餘坪を開き、卉木花鳥を殖蓄し、四季參拜者の遊覽に供せり、現住隆運僧正に至て、更に七町餘の田圃を埋め、更に公園大擴張の計畫あり。

○大師新道 明治二十一年平間寺の一手にて、土地買収工事を起し、工費總計二萬二千五百圓を投じ、二十二年三月を以て成功し、左右に櫻樹を植えて春陽爛熳の風致を添ふ、舊道は川崎より約一里、迂回屈曲道路荒廢浸水の難あり、參拜者の不便甚しく、殊に近村霖雨の候に水害を受くること年々なりし、時の住職深瀨隆健之を官に乞ひ、幅員四間の堤防兼道路となし、偉大の公共事業を達せしを、時の知事冲守固氏の知る所となり、其筋より御紋付三つ組金盃を下賜せらる、近時電車往來して京濱の交通至便なり。

○仁王尊 は、山門に安置す、明治三十五年六月横濱同心講の發起寄附、同年十一月入佛供養舉行す、此仁王尊は、御丈壹丈尺横濱に於て、彫刻中、火事ありて近隣迄類焼せしも、不思議にも尊像は焼失せざりしより人々火防仁王尊なりとて尊信せり。

此他重なる境内の建物及寄附品

●大日堂 ●觀音堂 ●太子堂 ●鎮守社 ●八十八ヶ所靈場堂 ●宗祖九百五十年忌塔 ●同一千年忌塔 ●同一千五十年忌塔 ●征清陣亡紀念碑 ●消防紀念碑 ●觀音銅像 ●神奈川縣消防紀念碑 ●ほ組大水鉢 ●山門敷石及石塀 ●淀橋講常夜燈 ●山門大提灯 ●寶篋院塔 ●三站松碑 ●水屋 ●月の井戸 ●御禱講水鉢 ●石造幟杵 ●大石燈籠 ●中央新聞燈籠 ●三田金燈籠 ●富澤町金燈籠 ●人形町水鉢 ●大鰐口 ●山門樓上釘隠 ●來遠號の砲丸 ●毛綱 ●玄關前石玉垣 ●蘇鐵周圍玉垣及諸碑石多し何れも京濱其他の信者の寄附に依れり。

寶物の大要

一般若心經
一鼠跡心經

道雄僧都筆
弘法大師筆
一卷
一卷

一當山紅綠記
一弘法大師御繪傳
一種子曼荼羅
一不動明王
一文殊菩薩
一愛染明王
一弘法大師
一三尊佛
一梵字名號
一高野四社明神
一釋迦三尊佛
一愛染明王
一五大尊像
一龍之畫
一唐子遊之圖

密教名刹

美福門院筆
弘法大師筆
妙澤筆
巨勢采女正相見筆
興教大師筆
御自筆
惠心僧都筆
理源大師筆
眞然僧正筆
顏輝筆
弘法大師筆
同筆
狩野法眼元信筆
張子昂筆
一卷
五幅
一幅
一幅
一幅
一幅
一幅
一幅
一幅
一幅
一幅
一幅
一幅
一幅
一幅
一幅
一幅

- 二 菅公之像 御自筆
- 二 天満宮木像 御自作
- 二 稻荷大明神 弘法大師作
- 一 地藏尊 満米上人作
- 一 多聞天 作者不詳
- 一 十一面觀世音菩薩 同
- 一 雨寶童子 弘法大師作
- 一 大黒天 同
- 一 辨才天 同
- 一 金銅如意輪觀世音 同
- 一 藥師如來 同
- 一 鍔金舍利塔 同
- 一 九股金剛杵 (弘法大師自他を加持し玉ふ) 同
- 一 勅賜檜皮色御衣袈裟水晶念珠 同
- 一 道中用御茶具 (文化三年山城醍醐三寶院王親王より下賜) 同

- 一 天目茶碗 (弘化二年九月廿三日御室宮濟江入道親王より下賜) 一個
- 一 手焙 一個
- 一 煙草盆 (徳川十一代將軍文恭院殿家齊公寄附) 一對

弘明寺 (横濱市弘) 高野派

蓮華院とも稱し、坂東第十四番の靈場なり、密教の元祖善無畏三藏の渡來するや、熊野稻荷二權現の案内に依りて、此地を結界し、暫く住せられしと云ふ、後天平九年疫癘の行はるゝや、行基菩薩勅に由りて、四方を巡り、民の疾苦を問ひ、且つ天下泰平の祈禱、并に佛法の興隆を説きける時、當地に止まりて、一刀三禮の十一面觀音を彫みたり、之れ即ち本尊なり、其後弘法大師錫を留めて伽藍を建立せり、中興開山は光慧上人にして、源氏累代の歸依を得、長榮沙門の祈誓には、平清盛熱病に罹りて死せりと云ふ、爾來興廢常なく、源覺法師一度修理を加へ、智光上人に至り、堂宇等悉く整ひ、殊に上人は道德堅固の高僧にして、道俗の尊信篤かりしと云ふ、後北條氏も亦代々當寺を尊信し、擁護せり、當時には菅公の靈像ありて、諸人の尊崇頗る篤し。

當寺を瑞應山と稱し、風光頗美にして、梅園之春曉、關伽井暮靄、辨天窟社、大悲閣、晚鐘、楓關門、夜雨、摩尼峯、秋月、護摩場、流螢、祖蹟之老松を八景とす、寶物には弘法大師の筆心經及額、其他御宸翰、狩野家の畫幅、源氏北條氏の文記、行基道風、惠心の筆になる書畫、大師行基運慶作の佛像等、總計二百余點に達す、現住渡邊寬玉師は興法と共に、盛に公共忠愛の爲めに努力し、寺門益隆榮を極む。

東福寺(橋掛郡生見尾村) 智山派

當寺の本尊は如意輪觀音にして、子安子育觀音と稱し、醍醐山勝覺僧正靈夢に依りて武洲鶴見の浦に於て海中より感得して安置せし尊像なり、稻毛重成は此尊に三七日祈願して、重安を産みければ、供田を納め堂宇を再建し、子安山と名づけたり、康和二年三月堀河院皇子を得んとて、前大納言藤原道房を當寺に使し、御祈禱ありしかば、鳥羽帝の御降誕あり、長治元年五月子生山東福寺の勅額を賜はりたり、爾來通俗の尊信日に篤く、累世替事ことなし、當寺には又いば地藏と稱する奇異の地藏尊像あり、現住金子隆英師は一意寺門の隆榮に盡しつゝあり。

其他の名利

古 義

横濱市元町

高野派

増徳院

準別格本山なり。

院主荒井興嚴師は定徳堅固の高僧にして、門弟を教養するに意を用ひ、學士等幾多の俊才を出し、寺門の興隆は日を追ふて、發展し、上下の尊信篤く、一派の重鎮たり。

南太田町

同

東福寺

浦上隆應師の所住にして、師は別傳あり、再建成りて、殿堂輪奐の美を極む。

西戸部町

同

大聖院

中村町

同

王泉寺

同

同

東漸寺

南太田町

同

普門院

本牧町

同

多聞院

南太田町

同

運花院

同

同

東光寺

同

同

大光寺

同

同

藥王寺

中村町

同

弘誓院

神奈川町

同

能滿寺

久保町

同

安樂寺

根岸町

同

海照寺

本牧町

同

天徳寺

同

同

眞福寺

同

同

東福院

密教名利

日連村	同	青蓮寺	牧野村	同	蓮乘院
湘南村	同	東林寺	内郷村	同	願鏡寺
足柄上郡金田村	東寺派	最明寺	同	同	三島院
川村	同	般若院	同	同	圓藏院
同	同	成就院	同	同	華藏院
酒田村	同	淨運院	松田町	同	寶壽院
岡本村	同	王傳寺	足柄下郡國府津村	同	寶金剛寺
小田原町	同	蓮上院	石橋村	同	寶壽寺
下曾我村	同	東光院	豐川村	同	勝福寺
新 義					
神奈川縣都筑郡柿生村	豐山派	王禪寺	岡上村	同	東光院
中里村	同	東福寺	同	同	藥王寺
山内村	同	滿願寺	同	同	釋迦堂
中川村	同	長泉寺	橋樹郡稻田村	同	常照寺

同	同	光明院	失田村	同	廣福寺
同	同	觀音寺	中原村	同	大樂院
橋樹郡田島村	智山派	圓能院	同	同	眞觀寺
同	同	成就院	町田村	同	東漸寺
御幸村	同	無量寺	同	同	延命寺
旭村	同	寶藏院	川崎町	同	眞福寺
高津村	同	安養院	橋村	同	蓮華寺
高座郡相原村	同	蓮乘院	同	同	花藏院
溝村	同	安樂寺	九澤村	同	金泉寺
津久井郡三澤村	同	普門寺	大井村	同	泉藏寺
横濱市宮崎町	同	延命院	同	同	東光寺
神奈川町	同	金藏院	同	同	東光寺

此は成田山の別院にて賽者日々市を爲す石川大僧正の兼務なり。

東京府

密教名刹

護國寺(東京市小石川區) 豊山派

徳川三代將軍家光の室桂昌院は家光の胤を宿せしを以て上野國大聖護國寺の住僧亮賢にトせしめしに、此胎兒必ず將軍たるべしと答へしかば、祈禱を命ぜられ、其兒綱吉は五代將軍となりしを以て、桂昌院之を徳として、天和元年高田の薬園に觀音堂を建立して御朱印三百石を附せり、第三代快意に及て、觀音堂を改築し、桂昌院に灌頂を授け大僧正に任ぜられ寺領増して千二百石となりたれば茲に豊山を凌ぐの勢となれり、快意の護持院に轉ずるや、豊山能化亮貞を護國寺に轉ぜしむるに至る、二年神田護持院焼失するや、此寺に合併せられ觀音堂を護國寺と稱し、本坊を護持院と稱し、寺領二千七百石となれり、隆慶の後には智山方より兼證住持となりしが、其後は豊山方より住持出て、能勢までは護持院と世代を別立せしが、能勝のときより全然合併せられたり、明治維新に際して役者筑波山の關係に依りて復飾願を出したるも、根生院作海其好を發き、自ら護國寺に晋みて、經營を怠らず、明治十三年本坊の火災に罹るや、其地を御陵に献納し、後境内に新義派事務所並に大學林を立て、日清戰死者の遺骨を納めたる忠靈堂を興し、今日豊山派の宗務所と學校は其境内に存し、末寺三百餘ヶ寺あり、國寶には五股鈴あり、現住永見快賢師は中野寶仙寺より晋みたり。

彌勒寺(東京市本區林町) 豊山派

元和年中宥鑊の開基、本尊藥師如來は行基菩薩の作、宥鑊は徳川家康の恩誼を蒙り、元和元年今の日本橋區馬喰町の西に一町四面の地を賜りて創立せしが、後將軍秀忠治世の季に、本所三ノ橋南に一町四面の地を賜はりて移轉す、而して當寺は慶長十五年鈞命に依り、新義四役寺の一となり、一派の法務を督したり、本尊藥師如來は宥鑊の常に護持せられし靈佛にして川上藥師如來と稱す、元祿四年英岳住するに及て、大に綱吉將軍に歸依せられ、元祿六年百石の加増を受け、其後快意亮貞と相續して寺門大に興隆し、後役寺として勢威を張り、明治維新に及べり、現時は前管長岩堀大僧正の住する所にして、寺觀舊を改め、大に隆榮の域に進みつゝあり。

新長谷寺(東京市小石川區關口駒井町) 豊山派

本尊不動明王は弘法大師作、徳川家光の時四不動を安置せられたるものの隨一にして、目白不動尊即ち是なり、秀算僧正の住せられしより、豊山の隱居所として東豊山新

長谷寺と改む、雲照和尚の目白僧園を開かれし以來大に世に知られ、現時は豊山大學學監、舊目白僧園の主幹釋慶淳師之れに住し、寺門益々興隆を見るに至れり。

滿願寺(玉川村) 智山派

文明二年定榮の開基にして吉良頼康の祈願所なり、細井廣澤は此の寺の檀家にして寺に其の遺物を藏す、境外に雌雄二本の瀧あり、所安の不動明王は足利義繼等の歸依する所なりと云ふ、口繪にある滿願寺の額は、細井九阜の書にして、其墓も亦茲に存ず、靈佛一言地藏は有名なるものなり。

寶仙寺(中野村) 豊山派

本尊不動明王、舊移轉地にて豊山派にありては屈指の大寺なり、長享の比、高野山の僧聖永の開基にして、後賢秀大に寺門を興隆し、徳川家康に重ぜられ、後に御膳所に列せられ、先には戒定、無等の學將あり、近くは關太溪師、永見快賢師あり、現時は前宗務長、秘密辭林及新義真言宗史等の著書として有名なる富田僧正、此を董せり。

三寶寺(石神井村) 智山派

飛頂山密乘院と號し、智山關東十一談林の一なり、本尊不動明王は行基菩薩の作、應永元年幸尊中興せり、文明九年太田道灌豊島氏を滅し、其城跡へ當寺を移したるものなりと云ふ、當寺第十一世には智好あり、中興幸尊より現住に至るまで、既に三十二世を経たり。

國分寺(北多摩郡) 豊山派

天平九年の創立、元弘の兵燹に罹りたるを、新田義貞之を再興し、今の伽藍は寶曆年中の建築にして、今寺中に八瓣蓮華紋の丸瓦一箇毎に橘、豊人、父男等の文字を刻せらるる瓦數種存せり、近時保存金の下賜ありたり。

善養寺(南葛飾郡) 豊山派

大永七年の草創、頼澄の開祖、中興開山を堅融と爲す、本尊は地藏菩薩なり、祈禱堂に奉安せる不動明王は、毘首羯磨の作、三國傳來にて惡魔降伏の尊像なりとして、遠近の詣者甚だ多し、有名なる星下の松あり。

惣持寺(南足立郡) 豊山派

豊山派武藏國南足立郡西新井に在り、厄除大師の靈場にて信徒最も多し、往古は川崎大師以上の盛大を極めたり、豊山移轉地にして諸能化此寺に住し、根生院無相等の墓は此寺になせり、境内に影向の松、弘法大師の加持水、御手洗の池等奇蹟の由緒を有するもの多く、又其閼伽井の有名なりしより、遂に訛りて地名を新井と呼ぶに至れり、近時濱野僧正大に寺門を興隆し、講社の數千を超へ、信徒は百萬に及び、其他日々參詣する者、或は數萬、或は數千、最も少なきも五六百を下ることなしと云ふ。

圓照寺

(豊多摩郡 澁橋町) 豊山派

徳川時代には春日局施主となり再建せしことを新風土記に載せたり、正保改め國圖にも同記事あれば、其頃は隆盛を極めたるものなるべし。

金剛寺

(西多摩郡 青梅町) 豊山派

青梅山無量壽院と號す、本尊は阿彌陀如來、弘法大師を開祖と爲す、後衰運に傾きたるを、頼遍之を復興し、法を元瑜僧正に嗣ぎ、殿堂伽藍を再建し、寺門漸く完成す、故に遍を以て當山の中興第一世とす、後ち第八世良深僧正益興隆に勤められたり、天保十二年

回祿の災に罹りたるも、文久元年建立の業を遂げ以て今日に及べり。

與樂寺

(北豊島郡 澁野川町) 豊山派

與樂寺は寶珠山地藏院と稱し、東京市に接續して、近き將來に於て市に編入せらるべき好箇の位置を占め、道灌飛鳥兩岡の中間に位し、府内八十八箇所の第五十六番、西國靈場正觀音二十一番府内阿彌陀の第四番として三種の札所を兼ね、信者遊觀者日に境内に充塞す、抑々當寺は、御室仁和寺直末院室は元祿十四年に開き、享保十六年豊山派の常法談林たり、慶安二年徳川家光御朱印を以て、境内一萬八千坪、境外田畑二十石を附せられ、舊幕府の獨禮席たり、末寺十八ヶ寺、本尊は、弘法大師作地藏菩薩の木像にして、五大尊、九品佛堂、阿彌陀堂、大師堂、鐘樓等完備せり、現住廣瀬師は明治四十四年以來工費一萬四千圓を以て本堂其他の改築を企て、大正二年四月全たく其の工を竣へ落成供養として傳法院派灌頂を勤修せられたり。

金剛寺

(南多摩郡 七生村) 智山派

高幡山明王院金剛寺と稱す、大寶以前に基を開きたるを、後に行基菩薩大日如來の尊

像を安置せしが、又年を経て弘法大師御手づから、不動明王の壹丈餘りなるを刻作し安置し給ひてより殊に靈異なる法場となりぬ、其後又慈覺大師錫を留め、清和天皇の御願所となり、平圓また興隆して、陽成天皇御願寺となりしとありしが、源頼義こゝに詣て、祈願し、軍功を建て都に歸るの序で、八幡宮を勸請して寺の鎮守とせらる、爾來住僧の立願よりするもあり、武將の祈誓するもありて、年を追ひ稻荷明神、高野明神、丹生明神、清瀧權現の四神を合せ祀りて五部權現と名く、而して星霜變り移り、本地の佛像、垂迹の神體共に朽廢に及びしを以て、曆應三年三月廿八日、住僧義海五基の位牌を造り、表裏に神號佛名を刻して祠に安置し奉れり、然るに明治維新の際、取除きたれども、本體は猶寺に秘め置けり、又其頃ほひ永意得裕と云へる二人の者修營して兩檀那となり、又平山武者所季重公弱冠より、此尊に歸依せられて、武威を祈り、源義經朝臣に隸ひて平家追討の業を遂られし後檀主となりて、御堂を修繕し、佩刀を献らる、又鎌倉の基氏、氏滿、滿兼の諸公相繼いて崇敬し、あまたの莊園三百石なりしと口碑に傳ふをぞ寄せられける、此御堂、元は山の上にありけるに、建武二年八月四日の夜、大風の爲に吹き荒されければ、住僧義海志を發し、地頭平助綱と大中臣氏の女とを勸めて麓の平地に移し建てつ其功を竣しは、康永元年正月二十八日なりき、又應永廿二年の春、沙門

乘海御堂の改繕を企てて、十方の信施を請はんとて、分倍の社僧壹岐律師に誂へて深大寺の花光坊長辨に勸進狀を請ふ、其眞蹟寺に秘めあり、今も其堂、本年草葺を改めて銅葺にせり、並に仁王門、ふるき世のまゝに存せり、再建の年より今年に至るまで五百五十餘年過ぎしを以て、明治廿四年十月保存資金を下し賜はれり、近隣に火の災ありて、烟焰の御堂に掩ひかゝらんとする時は、俄に雨降り出て、狂へる猛火をうち消し、ことあまた、びなりき、さるからに、火防の不動とも呼びなせり。

高尾山(南多摩郡 浅川村) 智山派

高尾山有喜寺藥王院は、天平十六年行基菩薩、聖武天皇の勅を奉じ、來りて藥師如來の尊像を彫刻し、一字の草堂を建つ、是れ當山の濫觴なり、爾後ち應安元年山城醍醐山の俊源大徳此の地に來り伽藍を再建し精修練行年を積み功を累ぬ、嘗て八千枚の護摩供を修せられしに、一夕夢中に靈尊出現し玉へり手には利劍を執り足には白狐を踏み、大徳に告げて曰く、吾は大聖不動明王の化身飯繩大權現なり、末世薄福の衆生の爲に、吾が形像を彫刻し普く群生に施せと、大徳夢覺めて歡喜感歎し乃ち之を刻まんとするに適ま異人あり來りて之を作らんと乞ふ、遂に西谷に在る事一七日、其尊像成る、

威儀相好夢に見たるに異なることなし、既にして異人は去て、其行く處を知らず、其刻せし處は、今の炊谷是なり、大徳因て其尊像を奉じて、之を安置す、即ち今の飯繩大権現なり、其像四月廿一日に成るを以て、後世是を例祭目とし、賽者殊に多く、遠近の信者歳を逐て益々多く、遂に海内屈指の巨刹となれり、永録年間には、北條氏康殊に此尊を信じ、四至の山林を寄附し、徳川幕府は前例に依り、朱印として、之を賜ふ、加ふるに、信者各成願を賽し、苗樹を献栽する事幾百萬に及ぶ、前々住佐伯隆範師大に復興に勉め、前住志賀照林師は、盛に土木を興し、又山内に八十八ヶ所を設け、前山に櫻樹を植ゆる等寺觀大に改まり、現住武藤僧正は、庫裡を改築して、輪奐の美を盡せり、講社の數千五百餘、信徒七十萬に上れり。

東京の近郊、茫々たる武蔵野の盡頭に於て、初めて見る秀峯靈岳、高尾の紅葉は既に都人士の噴々措かざる所、山中一本杉の靈木、獨銛水の神泉、四絃琵琶の兩瀧あり、近時春夏秋の三時は、日々登山する者多きは數千、少なきも三四百を下らず、眞に仙實靈域と云ふべし。

靈雲寺

(東京市本郷區) 高野派

貞享元年河内の淨嚴律師江戸に來り遊び、時の執權柳澤出羽守の歸依を享け、元祿四年現地に大伽藍を建て、新安流の根本道場と爲し、灌頂堂には兩部大日如來を安置し、又將軍綱吉は大元堂に、大元帥明王を奉安し、寺領百石を附したり、開祖淨嚴、第二世惠光、第三世惠曦相承け、累代學者碩德輩出し、一方には戒律の道場として、一方には義學の淵府として、上下の尊崇篤く、門下幾多の逸才を出し、戒定惠三學具足の遺風、今尙廢せず、現住光野正行師の如きは、齡既に七旬を過ぐるも、一派信仰の中心として、戒德堅固に道譽高く、檀信徒には朝野知名の士夥しく、我密教東部の重鎮たり。

眞福寺

(東京市芝區愛宕町) 智山派

眞福寺は古より新義眞言の役寺にして、維新後は宗務所と爲り、智豐別立よりは、宗務長の兼務寺と定め、本尊は藥師如來にして、愛宕山の別當圓滿寺は維新の際眞福寺に合併の姿となれり、一昨年客殿の類焼に罹りしより、新たに洋風の建築を爲し、一派の宗務所として、頗る新式の美を極めたり。(由来は前篇にあり)

普門院

(南葛飾郡龜戸町) 智山派

龜戸の天満宮と俱に、府下名所の一に數へられ、何人も知らざる所なき大刹なり、院主世々碩徳多く、檀信徒の歸依尤も篤く、寺門日に興隆し、殊に現住千葉師は、温厚篤實護法の念尤も深く、屢々灌頂法會を執行し、門末の尊信甚だ固く、今や二萬三千餘の大資を投じて、客殿庫裡の新築其功を竣へ、輪奐の美目を眩せんばかりにて、東京市内外各宗派の寺院中、淺草傳法院を除くの他、未だ斯の如き結構の殿舎を見るべからざるなり。

根生院(北豊島郡 高田村) 豊山派

開山は榮譽上人にして、春日局の親戚なりと云ふ、貞享三年知足院の後を受けて、役寺に晋み、彌勒寺と共に飛ぶ鳥をも落さん勢あり、従つて幾多の碩學を出し、能化職に晋みしものも尠なからざりき。

梅照院(豊多摩郡 野方村) 豊山派

天正年間の開基にして、玄鏡和尚曾て目薬を調劑して施薬せしより、世人新井の薬師と稱し、信者日に多く、詣者踵を接して絶ゆることなく、平日にても千人を下る事なし、

殊に現住神谷僧正は温良にして護法の念篤く、寺門愈々隆盛を極めつゝあり。

其他の名利

古義

東京市日本橋區大傳馬町 高野派 大安樂寺

服部師が幕府時代の牢跡に新創せしもの、準別格本山として、頗る盛なり。

本所區竹町 東寺派 遍照院

檀徒千戸信者十萬に及び、福徳圓滿の大刹なり。

深川區公園 御室派 永代寺 本所區元町 東寺派 大徳院

小石川區高田町 同 吉祥院

此れ雲照和上の開基隱栖の地にして、現今松田密信僧正之を管せり、雲照寺と云ふ。

京橋區越前堀町 高野派 圓覺寺 芝區二本榎町 同 長壽寺

淺草區永住町 御室派 密藏院 麻布區櫻田町 高野派 正光院

牛込區高田町 同 準別格本山 放生寺 深川區福住町 御室派 萬徳院

芝區三田一丁目

瀧野川村

豐多摩郡澁谷町

品川町

鶴川村

高野派

同

同

同

龍生院

大龍寺

室泉寺

品川寺

花嚴院

北豐島郡板橋町

尾久村

荏原郡大崎町

南多摩郡八王子町

同

同

同

同

日曜寺

地藏寺

高福院

高野派

高野派

金剛院

新義

東京市小石川區仲町

下谷區中根岸町

谷中町

同

同

同

深川區龜住町

豐山派

同

同

同

同

同

常泉院

千手院

觀音寺

多寶院

自性院

明王院

龍光院

法乘院

本郷區元町

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

三念寺

世尊寺

長久院

觀智院

加納院

德上院

法樹院

南藏院

四谷區寺町

北豐島郡石神井村

上練馬村

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

密教名利

眞性院

生命寺

愛染院

不動院

光明院

城官寺

淨光寺

西福寺

安養院

金乘院

金乘院

眞性寺

阿遮院

常樂院

圓福寺

芝區豐岡町

中新井村

瀧野川村

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

明王院

南藏院

東覺寺

無量寺

金剛寺

觀音寺

養福寺

能滿寺

重林寺

南藏院

東福寺

延命寺

善照寺

永福寺

一〇

龍泉寺町

同

龍泉寺

深川區公園

同 成田山不動堂

芝區愛宕町

同

鏡照院

成田山川崎大師の出張所を兼ねたり。

同

威徳寺

芝區三田北寺町

同

寶朱院

赤坂區一ツ木町

同

威光院

同

同

不動院

淺草區榮久町

同

正福院

永住町

同

觀藏院

南松山町

同

吉祥院

南松山町

同

成就院

荏原郡馬込村

同

長遠寺

羽田村

同

自性院

六郷村

同

東陽院

矢口村

同

蓮華寺

大井村

同

來福寺

南葛飾郡砂村

同

持寶院

龜戸町

同

東覺寺

同

寶蓮寺

隅田村

同

多聞寺

龜青村

同

惠明寺

同

同

龍光寺

大島村

同

勝智院

寺島村

同

蓮花寺

大木村

同

正覺寺

同

同

正福寺

南足立郡江北村

同

寶藏寺

北多摩郡田無町

同

惣持寺

久留米村

同

多聞寺

保谷村

同

如意輪寺

千歳村

同

東覺寺

北豊島郡岩淵町

同

普門院

同

同

西蓮寺

同

同

寶幢院

同

同

眞頂院

王子町

同

西音寺

志村

同

蓮花寺

南多摩郡恩方村

同

寶生寺

同

同

淨福寺

八王子町

同

大義寺

桑田村

同

安養寺

同

同

延命寺

日野町

同

藥王寺

小宮村

同

龍光寺

此れ詩家の泰斗村岡師の住する所なり

埼玉縣

大聖寺(南埼玉郡大相模村)豊山派

天平勝寶二年良辨僧正の草創にして本尊不動明王は良辨僧正の作、關東三不動の
一に數へられ、眞火山不動院と號す、天正十九年徳川家康公當時に詣して、六十石の朱印

と大聖寺の寺號を賜り、毎年一月中三日間秘法を修し來れり、明治二十八年七月祝融の災に罹り、本堂輪藏講堂書院二王門等十二棟の大伽藍を燒燼せり、境内に有名なる御座松あり。

聖天院(入間郡高麗村) 智山派

天平勝寶三年高麗王若光の持念僧勝樂なるもの冥福を祈らん爲めに伽藍を建立せんとせしが、中途に寂せしを以て其資雪雲は若光の第三子なれば、其志を繼ぎて竣工し、父若光の所崇の聖天を安置して、高麗山勝樂寺聖天院と稱す、其後法相宗に屬せしが、貞和年間醍醐山秀海住せし以來眞言に歸し、現住迄四十八世なり、寺門日に盛に、參者常に市を爲す。

善光寺(北足立郡川口町) 智山派

開基は定尊と稱し尾州熱田の人、常法華經及び彌陀名號を唱し、信濃國善光寺如來模鑄の大願を發し、建久六年五月に着手し、功成の後之を負ふて諸國を巡化せしが、川口町に至りて堂宇を建立して之を安置せり、上人は天台宗の人なるも、其後淨土宗となり

興廢屢々なりしが、元祿年間一容之に住して本堂支院を再建し、眞言宗新義派に屬せり、明治維新の後支院東明院西喜院分離して本坊を阿彌陀堂と唱せしが、後に此二支院を合併して現時は善光寺と稱するに至れり。

玉藏院(北足立郡浦和町) 豐山派

文明中印融法印伽藍を再營し、三寶院の直末に屬し、道教方を相承せり、永祿中同録の災に罹り元龜中再築して今日に及べり、天正十九年徳川家康公古刹保存の爲め、朱印並に境内不入地三町三反餘を寄附し、住職宥盛を大僧正に任じ、獨禮式寺格と爲す、寛永二十年豐山の移轉地と定められ、快道等の諸傑を出せり。

靜栖寺(北葛飾郡松伏領村) 智山派

元和九年石川幸正の歸依に由り明海上人の開く所なり、石川氏は専ら地方開墾に従事し、慶安年間幕府に請ふて當寺を香華院となし、香田拾數丁を寄附し、爾後一靈毎に一寺を建立して當寺の支院とし、其數二十三寺に及びしが、明治維新の變に會し、十三寺に減ぜり、當寺は始め清淨寺と稱せしも、中興堯宗の時に和末となり、今の寺名と改

一六
め、萬治三年御室宮當寺に逗留せられ入佛供養等を修せられたり、近時祝融の災に罹り、目下再建中にして、現住齋藤護道師は寺門の興隆に熱誠を込め、定徳堅固の碩徳なりとて、檀信徒の歸依甚だ篤しと云ふ。

長久寺(北埼玉郡 長野村) 智山派

應永年忍城主成田五郎家時一字を建立し、通傳を開祖となす、當時は忍城の鬼門に當るの故を以て、代々領主の祈願所たり、寺領三十石、當地著名の大寺にして、名古屋の長久寺は此の寺より出たり。

最勝院(南埼玉郡 粕壁町) 智山派

坂東十二番の觀音の別當なりしを、新田義貞の臣春日部治部少輔の乞に依り、齋尊のとき正安元年此地に移せしを以て、十二番の觀音と同じく花井山慈尊寺最勝院と稱す、貞享の比在住の中興俊弘は、智山運敵と隙あり、刑に觸る、今は此上人火防の靈驗ありと信ぜらる、齋尊より現住迄三十六世なり。

廣徳寺(比企郡 保谷村) 三 豊山派

比企の大師堂と云ふ、大御山西福院と稱す、大同年間の創立、本尊阿彌陀如來並に四大明王は弘法大師の作と傳ふ、天正十九年徳川家康當寺へ詣て、香油料として寺田若干を給ひ、境内不入の地とせらる、正保享保年間火災に罹り、本堂佛殿共に烏有に歸したるも、再興せられ、正城前管長は此寺より出でられたり。

善臺寺(兒玉郡 保原村) 豊山派

天慶二年快道の草創する所にして、藤原秀郷を開基と爲す武藏古談林の隨一なり、本尊不動明王は靈驗所にして、當時の武將に歸依せらる、二代定海は鷄足寺の常祐と共に平將門調伏の法を修し、三代深覺は東寺長者に晋めり、現時は前豊山中學校長にして、加持世界の主幹たりし、新進佛教の泰斗たる雨峰小林師在住して、盛に法雨を灑ぎつゝあり。

成身院(兒玉郡 秋平村) 豊山派

本尊不動明王は弘法大師の作なり、當寺は應永六年鎌倉管領持氏の歸依に依りて、元空の開く所なり、豊山の秀慶能化は此寺より出でられたり、現に七十箇寺の末寺を有

せり。

總願寺(北埼玉郡不動國村)智山派

不動岡玉嶗山總願寺の本尊不動明王は智證大師の作にして、元と京都紫宸殿に安置せられしを、偶々事變に際し、今を距る八百餘年前、武州吉見領へ移遷在らせられしが、長曆三年霖雨連旬一朝の洪水をなせし折柄、上州神奈川の河上より一朶の靈木の如くして波間に映徹し流れ出てたり(此川神流川と云ふも此所以なり)然に往昔は利根川當村の南へ帯びて遠く大洋の尾閭へ出たり、故に此尊像も流に隨て浮沈し玉ひ、因縁感應のゆゑにや自然と岸に止まれり、野人村老始めは靈光の赫奕たるに恐れ、敢て揚ぐる者なかりしが、雲水の一僧忽然と現はれ、乘に告げ宣はく、是れ此の尊は大聖不動明王なり、智證大師の御作にして靈德窮りなけん、疾く揚げ奉つれ、此の地は即ち明王相應の靈地なりと告げ畢つて彼の僧何處ともなく消え失せけり、皆々奇異の想をなし初めて其神勅なることを覺り、謹んで揚げ奉り、里人相謀つて新に殿堂を經營して安置せり、因つて此の所を不動岡と稱し、此の尊像の上らせ給ふ地を不動島と云へり、後別當總願寺を創するに及んで玉島山と稱するも此の由縁なり。

總願寺は元和二年僧源信の創立する處なり、源信字を總願と云ひ江州の産なり、幼にして双親を失ひ、十五歳高野山に登り、尊如律師に隨て剃染す、螢雪十四年終に其奥を究む、廿九歳秋峨然として山を降り、諸國を遊説すること六年にして當國に到れり、偶々病に侵され不動堂に止宿して治療し、數日にして病癒ゆ、一日堂僧に開扉を請ふて親く尊像を拜せり、信其尊嚴の尋常ならざるに驚き、竊かに其秘佛なることを知り、歎喜措く能はざりき、然るに堂僧年老るを以て辭せんと欲し、後を信に守らんことを乞ふ、信元より一郷に住することを欲せざりしが、彼の尊の靈光の偉大なるを尊慕し、遂に錫を此地に留め、爾後永く明王を守護し奉るとはなりぬ、是より後信日夜明王の威徳を憶念し一寺を建立せんことを發願す、信徒も又信が熱誠なるを喜び、争て淨財を投じ、能所互に協力して不日にして竣功することを得たり、因て玉嶗山總願寺と號す、信在住四十八年にして逝す。

其後永祿の頃上杉北條の兩家の兵亂に遇ひ、魏々たる佛堂伽藍も霜侵し雨穿つて脇士靈寶等若干散失し、僅に本尊逝多迦童子の二尊を残せり、其後泰平の治に復し、再び草堂を架せしが、明和八年十二月回祿の災に罹り、客殿其他類焼せり、斯くして第五世秀意法印は道德堅固の聞え高く衆庶の渴仰は本尊の靈徳と俱に高く、庫裡の再建山

門の建設等堂塔の建築は嶮嶮として倍舊の壯觀を呈せり、尋て第六世秀戒法印に至る師は先代秀意法印の高足にして亦善く師の宿願を資ぎ、衆庶の信念を鼓吹し、堂塔の増築、器具の完成等に勉め、一層の美觀を奏して、宛も錦上添花の觀あり爾來星霜を経て今日の隆盛を見るに至りしは、實に此二師の鴻業に基すと謂ふべし。

今當山靈寶の二三を舉れば天國の寶劍玉嶠の珠と稱するもの、兆殿司筆の十六羅漢妙澤筆の不動尊像、古法眼元信筆の弘法大師の像、弘法大師筆の經卷、弘法大師御作の愛染明王、地藏菩薩、智證大師御作の銅像不動尊、及び髮卷の鰐口、等其尤なるものなり抑々當靈場は武藏の北部に位して東都を距る、十五里、古へ武藏野と稱へし頃は草茫茫々として涯りなく、古利根の堤防は今尙當山の後園に残りて此れに登れば富士、日光筑波の三山を座ながらにして望見するとを得て風景の佳絶なること名狀すべからず、目下菖蒲園牡丹園藤棚等、宏大なる公園的の設計を爲して既に完成に近づきつゝ、あり、檀信徒には東京方面に知名の士有方家多く、日々の賽者は、漸く成田を壓せんばかりなりと云ふ。

明治卅四年七月中央新聞社は投票を以て全國神社佛閣に對する尊信の趨向を天下に問ふや、當山不動明王實に其首位を占めたり、是れ誠に當不動尊の功德の偉大にし

て靈驗の顯著なるを證するに足れり、此に於て中央新聞社は此の世人の尊信の集る所を尊崇し、當不動尊の功德の偉大なるを表せんが爲め、堂前に壹對の一大常夜燈を奉獻せり、其意匠たるや文明の技術として東京美術學校教授正六位、竹内久一先生の考案に依り、人造石を以て成る、高さ一丈八尺にして天下無數の燈臺なり、此の壯快なるの舉と熱誠なる信徒の姓名とを、永く後世に傳へんが爲めに一大記念碑を建設せり、丈け二丈三尺餘の大碑にして、正面へは五筆四十三世尾形雲海師の揮毫を以て、全國神佛信者數第一位記念之碑の十四文字を彫刻せり、亦た縣下唯一の大碑と稱せらる、又守田寶丹翁書の丸日講大護摩記念石あり。

極樂寺

(大里郡 寄居村) 豊山派

弘仁年間弘法大師の創立せし所にして、安置せし歡喜天の像は大師の作なりと云ふ、近時保存金を下賜せられたり。

弘光寺

(大里郡 本郷村) 豊山派

天平七年空阿上人の開創する所にして、佛母院と稱せしが、文治年間寺主祐尊、源頼朝

の歸依を受け、大に寺門を興隆し、弘光寺と改めたり、舊移轉地なり、近時保存金の下賜ありたり。

金乘院(入間郡上) 豊山派

創開は聖武帝の朝に在り、行基菩薩の作たる觀音大士及脇師不動尊、毘沙門天の像あり、天文年中泉海之を再興して、堂宇を建立せり、近時保存金の下賜ありたり。

東陽寺(大里郡本郷村) 豊山派

慶雲年間惠空上人の開基する所にして、爾來今日まで幾多の變遷隆汚ありたるも、七十四世其法脈を連綿經承して、曾つて變ることなかりしは、實に珍とするに足る。

其他の名利

古 義

北埼玉郡千子林村	高野派	文殊院	種足村	同	福性院
南阿原村	同	觀福寺	大里郡明戸村	同	總持寺

太田村	同	能護寺	大幡村	同	養平寺
妻沼村	同	準別格本山觀喜院	大寄村	同	泉光寺
兒玉郡仁手村	同	最法寺	比企郡出丸村	同	寶石寺
西吉見村	同	正傳寺	入間郡植木村	同	圓乘坊

新 義

北葛飾郡吉川村	豊山派	密嚴院	同	同	觀龍院
同	同	日藏院	三輪江村	同	定勝寺
彦成村	同	圓明院	松伏領村	同	妙樂寺
同	同	寶珠院	同	同	無量壽院
豊野村	同	常樂寺	同	同	東耀寺
富多村	同	延命院	八代村	同	寶聖寺
南埼玉郡湖上村	同	普門寺	同	同	寶光寺
八幡村	同	西福寺	八條村	同	寶幢寺
同	同	清勝院	川柳村	同	三覺院

秩父郡兩神村	同	延命寺	同	兒玉郡東兒玉村	同	寶珠寺
玉井村	同	大正寺	同	三ヶ尻村	同	龍泉寺
大里郡榛澤村	同	東光寺	同	藤田村	同	觀泉寺
入間郡宮寺村	同	西勝院	同	比企郡伊草村	同	金乘院
北埼玉郡大越村	同	德性寺	同	利島村	同	慈眼寺
同	同	大德寺	同	箕田村	同	龍昌寺
同	同	東福寺	同	神根村	同	寶藏寺
戸塚村	同	西光院	同	同	同	西福寺
同	同	善福寺	同	北足立郡谷塚村	同	觀正院
櫻田村	同	藥王院	同	新田村	同	寶持院
久喜町	同	光明寺	同	鷺宮村	同	壽德寺
大袋村	同	淨光寺	同	増林村	同	東福寺
新和村	同	金剛院	同	武里村	同	觀喜院
同	同	光明院	同	同	同	金剛寺
同	同	東漸院	同	大相模村	同	安養院

旭村	同	正觀寺	同	金屋村	同	眞福寺
秋手村	同	日輪寺	同	北葛飾郡吉川村	同	智山派
南櫻井村	同	道善寺	同	桑手町	同	正福寺
幸松村	同	仲藏院	同	旭村	同	寶珠院
南埼玉郡百間村	同	西光院	同	蒲生町	同	吉祥院
川通村	同	大光寺	同	江面村	同	善德寺
出羽村	同	光福寺	同	太田村	同	常樂寺
同	同	高輪寺	同	同	同	一乘院
篠津町	同	觀福寺	同	蒲生村	同	清藏院
篠津町	同	青雲寺	同	川柳村	同	成就院
篠津町	同	正福院	同	比企郡中山村	同	金剛寺
同	同	西見寺	同	八ッ保村	同	善福寺
中山村	同	能善寺	同	同	同	延命寺
伊草村	同	大聖寺	同	小見野村	同	法鈴寺
西吉見村	同	息障院	同	同	同	安樂寺

南吉見村	同	明王院	同	觀音寺
吉見村	同	金剛院	同	法光寺
中丸村	同	壽命院	同	圓藏院
野田村	同	總持院	同	醫王院
上尾町	同	遍照院	同	錫杖寺
鳩ヶ谷町	同	實正寺	同	三學院
安行村	同	密藏院	同	吉祥院
與野町	同	圓乘院	同	地藏院
植水村	同	林光院	同	變光明寺
新念村	同	長照寺	同	寶幢寺
南平柳村	同	吉祥寺	同	淨龍寺
戸田村	同	觀音寺	同	滿願寺
南平柳村	同	藥林寺	同	東光寺
北埼玉郡笠原村	同	東光寺	同	眞觀寺
埼玉村	同	滿願寺	同	成就院

成田村	同	一乘院	同	遍照院
埼玉村	同	盛徳寺	同	普門寺
水得村	同	龍宮寺	同	法輪寺
元和村	同	善定寺	同	眞光寺
大桑村	同	大福寺	同	生善院
豊野村	同	金乘院	同	正覺院
加須町	同	勝藏院	同	本行院
太田村	同	三明院	同	蓮花院
奥富村	同	瑞光寺	同	大智寺
越生町	同	法恩寺	同	醫王寺
今宿村	同	眞光寺	同	長久寺
三芳野村	同	東光寺	同	慈眼寺
水富村	同	明光寺	同	普門寺
小谷村	同	大應寺	同	金藏院

成田山別院にして石川大僧正兼住なり

入間郡川越町

密教名刹

宗岡村	同	千光寺	秩父郡尾田蔭村	同	寶光寺
野上村	同	玉泉寺	三澤村	同	常樂寺
皆野村	同	圓明寺	兒玉郡長幡村	同	吉祥院
同	同	眞福寺	松久村	同	常福寺
北泉村	同	宥勝寺	本莊町	同	大正院
東兒玉村	同	長福寺	七本木村	同	西福寺

千葉縣

神野寺(君津郡秋元村) 智山派

鹿野山神野寺と云ふ、軍荼利明王と飯繩權現の靈場として聞ゆ、在昔聖德太子藥師軍荼利の二尊を彫みて安置せり、後日本武尊阿久留山と云ふ夷を誅して當山に埋むと云へり、慈覺大師も此の山に住せしとあり、源賴朝も開運を祈り、親鸞上人は法成就を祈りたりと傳ふ、明應の比大火に會したるも國守人道全舜興隆に力を致し、相次て里見義堯の歸依を受け、寺門漸く榮えたり、山甚だ高からずして、而かも全たく俗塵を離れ、宛として仙寰に入るが如く、加之展望快濶にして、東京灣より房相の海波は脚下に

跳り、三浦半島より富士の峯峯は、隻眸に集まる、眞に天下絶勝の偉觀たり、寺財として有名なる大森林あり、近時之を拂下げて寺門の興隆を圖り居れりと云ふ。

清澄寺(安房郡天津町) 智山派

寶龜二年不思議法師の創建にして、本尊虛菩薩は同法師の作なりと、承和三年慈覺大師當山に來り、十二僧坊廿五祠殿を建て、盛に台密を弘通せられ、大師入山の記念木と傳ふる巨杉今に存せり、天福元年日蓮上人年十二才にして當寺に入り、導善阿闍梨の室に、投じ、嘉禎三年染衣して蓮長と稱し、建長五年法華題目を唱へ、開宗の基を啓きしを以て、當山を日蓮四ヶ靈場の隨一と稱す、天正十六年兵火に罹り、慶長十二年再建せり、今の伽藍即ち是れなり、慶長十五年里見義忠より百六十六石の朱印を得、又た元和二年徳川秀忠公より百七十七石の朱印地を給せらる、元和四年將軍秀忠公の台命にて智山學將頼勢をして住職たらしめ、十萬石の格式を興へらる、境内三萬四千二百六十坪寺領山林三里四方、伽藍は房總兩國の間に介立せる靈山なるを以て兩國の氏寺と呼び、四近の尊信淺からず、春秋二季初穂と稱して農作物を奉納するもの多し、現住青木宥如僧正は、戒徳堅固の大護法家にして、在山既に久しく、一意寺門の興隆に勉め

つゝあり。

千葉寺(千葉郡千葉町) 豊山派

行基菩薩の開創にして、本尊は十一面観音、坂東第二十九番の霊場たり、永曆中雷火に罹り、建久三年頼朝公千葉常胤に命じて再建せしめ、寺領一千石を寄附す、徳川時代には更に朱印百石を給せらる、元録中又火災に罹りしかば、桂昌院之を再興せられ、豊山の移轉地たりしも、再び類焼し、二十八世高照之を再興して今日に及べり。

國分寺(東葛飾郡國分村) 豊山派

國分山金光明寺と號す、本尊釋迦如來、行基菩薩の開基なり、延元年間諸堂烏有に歸し、密善大徳之を再興せしが、文明年間再び焼失せり、寛永の頃榮海再興せしが、享保二年又祝融に罹れり。

建曆寺(君津郡周南村) 豊山派

開基は行基菩薩にして、後ち多田滿仲之を再營して、貞元親王の冥福を祈り、建曆年中

鎌倉府執權北條氏に請ふて、建曆の寺號と寺領十五石の朱印を賜はりたり、本尊彌陀三尊は惠心僧都の作なり、外に千體佛を安置す、什寶二十五菩薩の假面(三面半)現存は頗る奇古なるものにして、凡そ七百年已前の作なりと云ふ。

觀福寺(香取郡香西村) 豊山派

寛平年中尊海の創建する所にして、釋迦十一面観音、地藏、藥師の四尊を藏す、これは中古香取神社より移したるものなり、此れ元と弘安四年北條實政が異賊追討報賽の爲め香取神宮へ納めたるなりと云ふ、豊山派中屈指の寺院にして、檀信徒の歸依篤く、寺門日に繁榮せり。

觀福寺(香取郡山倉村) 豊山派

山倉の第六天として、頗る著名なる霊場なり、尊像は弘法大師の開眼にして、賽者日々間斷なく、靈佛の聞へ遠近に響けり。

報恩寺(長生郡西村) 豊山派

大同の比源遷の創立せし所にして、現住まで六十二世を経たる古刹なり、明治以前は六十餘ヶ寺の末寺を有し居れり、本尊地藏尊は慧心の作、靈驗新なり。

大日寺(千葉郡千葉町)高野派

阿毘盧山密乘院と號す、寛字元年藤原家節卿の草創する所にして、本尊は大日如來、開基仁生の作、寺中に千葉大夫常兼より胤將に至る十六代の墓あり。

東勝寺(印旛郡公津村)豊山派

佐倉宗吾の靈を祭るを以て著名なり、參詣の徒四時絶ゆる事なし、宗吾は承應中領主の非政を鳴らし、領民に代りて四代將軍に直訴し、一族極刑に斃れたる義人にして、境内に其墓あり、宗吾靈堂は宗吾父子の靈を弔はんが爲めに建立せられたる者にして、父子の木像を安置す。

福善寺(匝瑳郡福岡町)智山派

福岡町八日市場にあり、其は匠瑤神社の社寺なり、曆應二年定濟之を中興し、寛保九年には、嵯峨御所蓮華院兼帶せり、當寺には虎少將の打掛と稱する刺繡衣を藏す。

西福院(香取郡笹川町)豊山派

意教上人の開基にして、其墳墓を上人塚又は和尚塚と稱す、寛政中多田庄兵衛なるもの寺觀を一變し、天福寺末を解きて格院とせり。

高藏寺(君津郡鎌足村)豊山派

白難二年藤原鎌足公、七間四面の觀音堂を建築し、深海の後、徳義等之を中興し、近時大に寺門を興隆し、政府よりは保存金を下賜せられたり。

千手院(印旛郡志津村)豊山派

本尊は春日佛師の作千手觀音にして、末寺孫末寺等總計九十五ヶ寺あり、鷄足護國の二大寺と相拮抗する名刹大寺なり。

新勝寺(印旛郡成田町)智山別格本山

本尊不動明王は、嵯峨天皇の勅願に依り、玉體擁護の本尊として、弘法大師一刀三禮親

ら彫刻して、洛西高雄山神護國祚真言寺の護摩堂に安置せられたる靈像なり、降りて朱雀天皇天慶二年、相馬小次郎平將門亂を東國に作し、諸州を侵略し、新都を建て、潜して平親王と稱し、朝野騒然たり、天皇嚇怒討征の將帥を下し、一面雲居寺淨藏貴所をして、大威徳明王の法を横川に修せしめ、特に廣澤の寛朝師に密勅して、天國ノ寶劍を賜ひ、不動護摩の法を修せしむ、寛朝乃ち高雄山神護寺護摩堂の本尊不動明王と、賜ふ所の寶劍とを奉持して、龍を難波の津に解き、一帆恙なく上總尾垂ヶ濱に着岸し、賊の偽宮猿島郡岩井を距る些かに五里強なる、公津ヶ原に進み、一字を結び本尊を安置し、三七日間調伏の護摩を修せらる。其満願の日、即ち天慶三年二月十四日、平貞盛、藤原秀郷等の爲めに誅に伏す、傳に曰く、此日將門の幻影血に塗れて護摩の煙の中に映じ、衆徒目前に此奇瑞を觀たりと、蓋し本尊明王の大威神力と寛朝師の大修験力と相感應して、此不可思議の現象を顯はす歟。斯くて殘黨倭ち滅び、關左再び王化に復せしかば、師は爐壇を結び躬ら尊像を寶櫃に藏めんとせられしに、重きこと大磐石の如く、毫も動かすこと能はず、此奇瑞を感じ、師は身を像前に投じて懇懃に靈託を請ふ、本尊乃ち曉の夢に告げて宣く、我未來薄福の衆生の爲めに、隨類應同諸の障害を除きて福智を與え、災難を禳ふて安樂を得せしめ、且つ東國の餘燼を鎮護せんが爲めに、永く此地

に留まらん、汝速かに京に還りて王命を復せよと、師覺め畢て感泣禮拜、遂に其徒、清壽照宥二人を駐めて尊像を守らしめ、急ぎ歸洛して具に事由を奏聞す、天皇叡威の餘、國司に命じて一字の堂を建立せしめ、供田を寄せて篤く供養し、且つ本尊高雄山の舊縁と、王師新たに大捷せる近瑞とに取りて、寺號を神護新勝と賜ふ。後現地に移轉し、爾來興廢常なかりしが、元祿の頃照範あり、堂宇を建立して中興の業を全ふし、稻葉正通の祈願所と爲り、莊田五十石を寄附せられたり、當時又江戸深川に出張所を設けて、大に信者を吸收せしかば、寺風是より一變して漸く隆盛に赴き、十一世照嶽上人に及びて現在の本堂仁王門、客殿等を建立し、其弟子照輪は益々寺基を鞏固にし、遂に關東第一の靈場たる眞價を明らかにし、次て照鳳を経て、現住石川照勤大僧正に及び、一方には彌々寺門の興隆に努め、又他方には國家并に公共事業に盡瘁し、所謂成田の五大事業なるものを完成せり、照勤傳參照現時講社の數は三千に及び、信徒は二百萬を下らず、日々の賽者尤も、少なきも千を超へ、一ヶ年の收入三十萬より減せず、寺有財産は既に百萬以上に登れり云ふ、伊勢神宮と本願寺とを除けば成田山と金比羅とは天下の兩横綱なりと稱せらる、寺寶の重なるものは

天國寶劍、酒醉天神、浪切不動尊、不動古面、千體不動尊、加茂冠者、義次の鏡、圓光大師不

焚の名號道譽上人眞筆御名號、弘法大師御作籠念珠、祐天上人百萬邊名號と六字名號并百萬邊念珠等とす。

其他の名刹

市原郡姉崎町 高野派 靈光寺 安房郡館山町 同 妙音院

新義

君津郡飯野村 豐山派 大福寺 周南村 同 壯嚴院
 眞舟村 同 光福寺 同 長樂寺
 鎌足村 同 德藏寺 清川村 同 善光寺
 巖根村 同 新御堂寺 中郷村 同 金藏寺
 同 長福寺 同 龍藏寺
 市原郡東海村 同 遍照院 戸田村 同 常住寺
 明治村 同 醫光寺 姉崎町 同 醫王寺
 市原村 同 釋藏院 同 國分寺

菊間村 同 千光院 市西村 同 龍谷寺
 五井町 同 千光寺 同 新善寺
 八幡町 同 密新寺 長生郡日吉村 同 日輪寺
 水上村 同 月輪寺 千葉郡千葉町 同 光明寺
 千城村 同 金光院 椎名村 同 長徳寺
 譽田村 同 東光院 千葉町 同 智光院
 都賀村 同 日永寺 檢見川町 同 千藏寺
 續橋村 同 大聖寺 幕張町 同 寶幢寺
 同 無量寺 二宮村 同 光明寺
 印幡郡志津村 同 千手院 旭村 同 善光寺
 六合村 同 來福寺 白井町 同 寶藏院
 千代田村 同 圓福寺 和田村 同 寶金剛寺
 佐倉町 同 大聖院 香取郡佐倉町 同 勝徳寺
 同 莊嚴寺 神代村 同 天福寺
 海上郡櫻鳴村 同 東徳寺 東葛飾郡船橋町 同 西福寺

密教名刹

八榮村	同	觀行院	同	金藏寺
葛飾村	同	正延寺	同	極樂寺
同	同	根本寺	同	光明院
同	同	東福寺	同	觀音寺
千代田村	同	聖德寺	同	東海寺
土村	同	觀音寺	同	長久寺
野田町	同	金乘院	同	西光院
川間村	同	富藏院	同	滿福寺
木間ノ瀬村	同	無量壽院	同	福壽院
安房郡噓町	智山派	圓藏院	同	楞嚴寺
豐房村	同	小綱寺	同	福聖寺
那古町	同	那古寺	同	如恩院
岡府村	同	寶珠院	同	金乘院
北條町	同	來福寺	同	惣持院
船形町	同	大福寺	同	國分寺

健田村	同	小松寺	田原村	同	成就院
富浦村	同	海光寺	君津郡佐貫町	同	岩富寺
周南村	同	附尾寺	同	同	龍善寺
大貫村	同	最上寺	同	同	眞福寺
天神山村	同	圓正寺	同	同	妙藏寺
吉野村	同	寶幢寺	中村	同	成願寺
同	同	長泉寺	智山の元老小柴僧正の住地なり。	同	興源寺
小糸村	同	圓明院	環村	同	神宮寺
龜山村	同	明覺院	同	同	光福寺
同	同	延命寺	平岡村	同	大同寺
同	同	善雄寺	馬來田村	同	藥王院
同	同	圓明院	小櫃村	同	長照寺
長浦村	同	正福寺	平岡村	同	龍泉寺
同	同	岩崎寺	根形村	同	行環寺

銚子町	同	威徳寺	同	東岸寺
高神村	同	高福寺	同	川福寺
海上町	同	良福寺	同	観行院
船木町	同	圓養院	同	地藏寺

茨城縣

神崎寺(水戸市) 豊山派

本尊大日如來、花園院天皇の御宇、延暦二年有榮阿闍梨の創立する所にして、水戸家の祈願所となり、現今にありても水戸市の第一位を占む。

六地藏寺(東茨城郡 稻荷村) 豊山派

俱胝山聖寶院と號す、水戸城を距る東二十五町の地に位す、當寺は大同二年弘法大師の創建にして、本尊延命地藏尊は聖徳太子の作と云ふ、寛平三年醍醐理源大師關東下向の際、當寺に留錫して興隆せらる、其後著しく頽廢せるを、應永十六年醍醐有尊の上足宥覺當寺を再興されしを以て中興と爲す、中興已來現住まで既に五十四世を経たり。

雨引山(眞壁郡 雨引村) 豊山派

樂法寺といふ、坂東二十四番の觀音の靈場にして、大同年間筑波の徳一の開創なり、中古足利尊氏の歸依を受け、天文年間眞壁家幹なるもの、水田及大般若經を寄附し、徳川時代には國學者の惠岳、性相學者の惠隆此の寺に住し、豊山派の移轉地中有數なるものとなれり、中興第一世呼永より現住に至る迄、二十八世を経たり。

華藏院(那珂郡 湊町) 智山派

戒珠山密嚴寺華藏院と稱す、應永年間宥尊上人創建し、宥侍之を繼ぎ、徳川氏時代には水戸藩の優待を受け、前任純亮まで五十二世を経たり、當時は三千餘の檀實を有し、寺門頗る繁榮を極め居れり。

北斗寺(新治郡 栗原町) 豊山派

當寺は推古天皇の御代の創立にして、古來星供を修するを以て有名なり、本創は藥師

如來にして堀河院の朝小田城主當寺に七品の寶物を寄附せられければ、其後七寶山と號し、本願三北斗寺の隨一なりとす。

寶幢院(東茨城郡石塚村) 豊山派

本尊正觀音菩薩、應永六年白鳥流廿八祖智空の開基に係り、泉山法嚴寺と號す、廿九祖宗俊亦此所に居住して當流第一の舊跡なり、智空より三世を経て法流を紹ぐものな
く杜絶せしが、元録九年源義公上品蓮台寺以傳を中興開山とし、現代迄廿一世を經たり。

其他の名刹

新義

東茨城郡岩船村	豊山派	大山寺	那賀郡村松村	同	虚空藏堂
鹿島郡白鳥村	同	福相院	中野村	同	蓮光院
行方郡延方村	同	普門院	太田村	同	龍翔寺
新治郡下大津村	同	南圓寺	三村	同	普門寺

瓦會村	同	雲照寺	美並村	同	法藏寺
小幡村	同	藥王院	上大津村	同	藥王寺
同	同	神國寺	同	同	神宮寺
同	同	觀音寺	眞鍋町	同	善應寺
石岡町	同	不動院	七會村	同	圓明院
榮村	同	東福寺	同	同	日輪寺
同	同	慈恩寺	藤澤村	同	成就寺
同	同	神宮寺	栗原村	同	持福寺
小田村	同	寶性寺	中家村	同	般若寺
東村	同	大聖寺	同	同	法泉寺
同	同	如寶寺	筑波郡板橋村	同	不動院
筑波町	同	一乘院	北條町	同	慶龍寺
田井村	同	普門寺	吉澤村	同	西光院
高道宗村	同	常願寺	稻敷郡君原村	同	藏福寺
清田村	同	新勝寺	北相馬郡寺原村	同	光明寺

相馬町	同	高藏寺	山王村	同	延命寺
同	同	明光寺	小文間村	同	福永寺
井野村	同	昌松寺	同	同	普門院
布川町	同	德滿寺	文間村	同	泉光寺
同	同	根本寺	結城郡結城町	同	大輪寺
同	同	釋迦堂	同	同	光福寺
同	同	金光寺	關本町	同	歡喜院
山川村	同	大榮寺	眞壁郡川西村	同	壽福院
古里村	同	神宮寺	猿島郡神大實村	同	妙音寺
生子菅村	同	萬藏院	境町	同	吉祥院
中川村	同	觀音寺	幸島村	同	東漸寺
五霞村	同	實相院	岡郷村	同	圓滿寺
西茨城郡岩間村	同	不動院	同	同	普賢院
南山内村	智山派	岩谷寺	七會村	同	德藏寺
東茨城郡石崎村	同	一心院	小松村	同	小松寺

小松内府平重盛の墓あり。

大貫町	同	西光院	那珂郡川田村	同	光明寺
久慈郡黒澤村	同	慈雲寺	金砂村	同	鏡德寺
俵上村	同	性德寺	稻敷郡源清田村	同	勝福寺
新治郡石岡町	同	千手院	林村	同	觀音寺
志筑村	同	文珠院	結城郡名崎村	同	滿福寺
北相馬郡菅生村	同	無量寺	猿島郡神大實村	同	延命院
岩井村	同	延命寺	弓馬田村	同	自性院
同	同	寶光院	桑島村	同	寶藏寺
同	同	度願寺	七郷村	同	寶藏寺
同	同	蓮華寺	中川村	同	地藏院
同	同	長谷寺	同	同	西光院
同	同	正明院	多賀郡平潟村	同	海徳寺
鹿島郡輕野村	同	般若寺	同	同	廣福寺
同	同	星福寺	鹿島町	同	護國院

東下村	同	神善寺	同	寶藏院
矢田部村	同	正福寺	中島村	同
高松村	同	西光院	同	最勝院

栃木縣

鷄足寺(足利郡 小俣村) 豊山派

佛手山金剛王院と號す、本尊釋迦如來、平城天皇勅して東寺定惠をして創立せしめたり、常祐天慶の亂に、將門調伏の法を修して驗あり、壇上に鷄足の瑞現せしを以て、今の寺號に改むと云ふ、常祐は僧正に任ぜらる、建長中慈猛此寺に住し、已來慈猛流の總本山と稱し、明治以前までは獨立の一本山たりしを、田下憲尊代豊山所轄となれり、是より先上杉謙信澁川侯を破るの時、兵火の爲め諸堂烏有に歸し、寺運衰頽に傾きしが、天正年間徳川氏より朱印を賜り、漸く舊觀に復するを得たり、今の本堂は正徳三年の建立なり、寶物の現存するもの多し。

鏝阿寺(足利郡 足柄町) 豊山派

俗に大日堂と云ひ、坂東有數の名刹なり、金剛山仁王院法華坊と稱し、同寺は建久七年足利義兼の氏寺として、其館側に建てられ、正和三年勅願所となり、佛供料として上州館林郷を得、又後醍醐天皇の繪旨を拜して、國家泰平の爲め萬燈會を修し、後光嚴院文和二年九月には興國と題する二字の勅號を賜ひ、また仁治三年左馬頭義氏下野に於て七邑を寄附し、尊氏は中山郷を、直義は長州下關を、基氏は下野借宿郷を、義滿は應安二年喜連川郷を寄附せられたり、寺内四方百二十間、惣堀をめぐらす、南面の樓門一丈計の仁王併立し、橋廊下を架す、大日堂、講堂、四脚の東西の門は建久七年の建立にして其古態を見るべし、且つ當寺は歴代足利家の墳墓寺たり、什寶中に尊氏陣中の幔幕あり、舊朱印地は六千石なれども、除地三百餘戸の民家を知領し、家政五百石高の寺領ありたり、大御堂、鐘樓、一切經堂は共に特殊保護建造物たり。

能延寺(宇都宮市 壺田町) 智山派

康平五年安陪黨叛逆の時、勅に依り天台の宗圓座主下野に下向し、宇都宮城中に祕法を修し、平穩に復するの後、宇都宮城の鬼門たる下田原に一字を草創し、密弘寺と號す、後應永年中松橋の俊海此國に遊化し、當寺を再興し、永録元龜の間松橋堯雅茲に住し

て灌頂を行ひたり、時に宇都宮城主下野の守廣綱、下田家と本城との間に二大河あり、往還に苦むを以て、城下に移して玉生山金剛乘院能延寺と名く、中興俊海より現住せ、て三十七世を經たり。

千手院(下都賀郡 寺尾村) 智山派

出流山千手院と通稱す、又滿願寺と稱す、滿願上人の開く所たればなり、且つ不動の瀑流出するが故に出流と名くと、本尊は千手觀音にして、勝道上人の開基、固と華嚴宗に屬し、表裏各六坊ありしが、其後延享寶曆享保文化慶應の五回の火災に會し、就中慶應の災は一山灰燼となれり、明治十一年吉堀慈恭此に住し、其の面目を改め、現今坂東十七番の札所として知らる、幽邃清雅及びなき靈區仙寰なり。

持寶院(河内郡 城山村) 智山派

多氣山持寶院と稱す、長治二年勝道上人の弟子尊鎮の開基する所なり、不動明王は源の頼光が大江山の鬼神退治祈禱の爲に圓覺上人の作る所にして、もと比叡山に安置せるを、源義家奥羽征伐に際して宗圓奉持して下向し、釜ヶ淵と稱する所に逆賊退治

の祈禱をなせり、因つて康平七年宇都宮に伽藍を建立せしが、長治二年燒失せしを以て、無難の地に移さんとて、多氣山に奉祀したるものなり、爾來幾百年不動明王の靈場として世に知らる、賽者常に絶へず。

龍興寺(河内郡 藥師寺村) 智山派

生雲山地藏院と號す、本尊は地藏菩薩往昔聖武天皇天平寶字四庚子年、鑑真和尚は如來東雲の兩人を従へ東國に來り此地に到る、時に天皇の勅願に依りて此地に戒壇を築かる、即ち龍興寺戒壇と呼ぶる者にして、所謂本邦三戒壇の一なり、或は戒壇は龍興寺にあらずして其北六町許りなる安國寺にあり、龍興寺は其別院なりと古來爭訟ありて定まれる所なり、内を出て、右の方に弓削道鏡の塚あり、周圍十間餘にて高さ二間餘あり、塚の後に鑑真和尚の墓碑あり、表には鑑真大和尚位、側面に天平寶字壬寅五月五日と鐫たるが鮮かに見え古色甚だ掬すべし、當寺の中興は慈猛上人にして中興已來現住に至るまで代を經る事三十七世なり。

西明寺(芳賀郡 益子町) 豐山派

高館山の半腹に在り、舊時は芳賀山益子寺と稱したりしも、今は猶鉦山普門院西明寺と號す、正暦元年花山法皇の草創にして、本尊十一面觀世音は行基菩薩の作、坂東第二十番の札所たり、延暦元年不破内親王當寺内に十二坊舎を設立す、慶安元年寺領四十石、地頭黒羽大關家の歸依厚く、時々法堂に修理を加へ、以て明治維新に及べり、樓門並に三重塔は特別保護建造物たり、本堂は元祿年中の増築にかゝり精巧を極む。

金剛定寺

(河内郡瑞穂野村) 智山派

弘安元年峯忍此地に來り一井より不動尊の影現するを見て、一坊を建て、桑島山正覺院能滿寺と云ふ、後鎌倉將軍惟康親王の病を祈り、其功に依り弘安元年伽藍を建立せられ、莊園若干を寄附せらる、後明治四年中興祐清早天に祈雨して驗あり、壇上に五股杵と金剛盤と磬を感得す、後此三器を天覽に供し、叡威斜ならず、金剛定寺と題する寺號の額を賜ふ、其後數度の焼失に會し、寺觀衰たれども、今末寺十八ヶ寺を有し、現住まて四十一世を経たり。

慈光寺

(鹽谷郡善連川町) 智山派

喜連山觀喜院と號し、永祿年間創立にして、鹽谷伯耆守の開基する所、日譽僧正を以て開山と爲す、本尊瑠璃如來は行基菩薩の作なりと云ふ、天正五年足利家の祈願所となり文化三年祝融の災に罹り、十二世良順の代に至りて再興し、以て今日に及べり。

金藏院

(安蘇郡常盤村) 智山派

清瀧山聖法寺と稱す、弘基上人の開基にして、唐澤山の城主佐野家累代の祈願所なり、慶長中佐野天徳寺了伯當寺に老隠して山門を建立す、今現存せる者は也、寛政三年堂宇灰燼に歸し、同六年再建せり、十三世栗原啓運を以て中興を爲す。

安樂寺

(安蘇郡福川村) 豊山派

昔筑紫太宰府に在りしを、元永年間唐澤山の城主佐野家綱勅許を得て、此所に移し、爾來久しく佐野家の歸依を受けたり。

龍樹院

(安蘇郡上村) 豊山派

天慶三年蓬萊城内に藤原永郷興郷兄弟の討死したるを吊はん爲め、天永二年佐野景

三鴨村	同	福壽院	安蘇郡橫野村	同	大聖院
同	同	寶光寺	田沼町	同	密藏院
葛生町	同	蓮乘院	足利郡御厨村	同	覺本寺
同	同	勝兄寺	同	同	覺性寺
山邊村	同	寶性寺	久野村	同	佛福寺
北郷村	同	金藏院	足利町	同	高德寺
葺鹿村	同	無量院	同	同	東光寺
同	同	千藏院	三重村	同	最勝寺
山前村	同	自性院	河内郡瑞穂野村	智山派	成願寺
藥師寺村	同	福滿寺	平石村	同	醫王寺
本郷村	同	滿福寺	吉田村	同	東福寺
芳賀郡祖母ヶ井村	同	崇眞寺	同	同	觀音寺
清原村	同	大乘寺	南高根澤村	同	般若寺
茂木町	同	覺成寺	田野村	同	光明寺
益子町	同	地藏院	中村	同	遍照寺

上郡賀郡鹿沼町	同	藥王寺	同	寶藏寺	
菊澤村	同	延藏寺	南押原村	同	成就院
下郡賀郡國分寺村	同	慈眼寺	石橋町	同	開雲寺
姿村	同	華藏寺	枋木町	同	滿福寺
同	同	雲龍寺	絹村	同	寶性寺
壬生町	同	興生寺	稻葉村	同	歡喜院
寺尾村	同	寶連寺	同	同	華藏寺
國府村	同	道安寺	鹽谷郡北高根澤村	同	淨蓮寺
泉村	同	觀音寺	喜連川村	同	東光寺
氏家町	同	光明寺	船生町	同	觀音寺
大宮村	同	持明院	箒根村	同	要金寺
安蘇郡常盤村	同	金藏院	同	同	開藏院
同	同	來迎寺	那須郡太田原町	同	遍照院
馬頭町	同	馬頭院	野崎村	同	觀音寺
荒川村	同	安樂寺	大山田村	同	總德寺

佐久山町 同 金剛壽院 同 妙徳寺
 蘆野村 同 三光寺 伊大野村 同 正福寺

群馬縣

大聖護國寺(碓氷郡八幡村) 豊山派

本尊は愛染明王なり、當寺は代々國主の崇敬深く、特に亮賢僧正は桂昌院の爲めに卜筮し、功驗空しからざりしを以て、桂昌院不動堂を再興し、其祈願所となせり、綱吉將軍は亮賢の徳を尊んで、江戸大塚に護國寺を建立し、其開山とせしを以て、當寺も隨て、世に顯れたり。

不動寺(碓氷郡井田町) 豊山派

寶元元年慈猛の創立にして、元龜四年武田信玄より朱印等を贈り、豊山派の移轉地として、現住まで四十代法脈連綿として絶へざるなり。

明王院(新田郡安養寺村) 豊山派

里名と同じく此寺を又安養寺と呼び、里俗觸不動と稱す、康平四年後冷泉院の勅宣に依り伊豫守源賴義の草創する所にして、開山を願空と爲す、建久元年新田義重之を再興し、安養院と爲す、建久元年新田義重之を再興し、安養院と改稱して追福所と定め、且つ自ら出家して同寺に住し、安養寺入道と呼ぶに至れり、中興は吞空二人なり、康曆二年足利氏の爲めに焼かれ、佛體佛具悉皆烏有に歸せり、元祿年間江戸に出開帳をなし、成田不動と競争せしことあり、著名なる秘佛にして、靈驗所なり。

惣持寺(新田郡世良用村) 豊山派

威徳山館之坊と號す、本尊不動王は興教大師作にして、開基は新田義重なりと傳ふ、住吉は眞光と稱し、新田家累代の祈願所たりしが、兵火に罹りて明記焼失、散中興開山を憲範と爲す、當寺は古來三十六ヶ寺の末等を有し、上野三談林の隨一にして、伽藍精美を盡せり。

長聖寺(吾妻郡太田村) 豊山派

弘安年中、吾妻郎主藤原行基、慶誘和上に歸依し、同師を招請して一寺を建立し、大に地

方に法雨を注げり、同時の碑今尙存し、爾來遂に同地方の信仰の中心として、一大名刹と爲れり。

其他の名刹

古義

高崎市新町	高野派	延養寺	若松町	同	光明寺
邑樂郡永樂村	同	光恩寺	小泉町	同	願成寺
瀬戸村	同	寶生寺	富永村	同	東光寺
同	同	寶珠寺	梅島村	同	光明寺
三野谷村	同	龍福寺	新田郡藪塚本町	同	長圓寺
島ノ郷村	同	西慶寺	生品村	同	寶藏寺
寶泉村	同	威光寺	同	同	正法寺
澤野村	同	教王寺	笠懸村	同	南光寺
澤野村	同	吉祥寺	同	同	長勝寺
同	同	正福寺	同	同	成願寺

木崎町	同	長命寺	太田町	同	東光寺
尾島町	同	淨藏寺	強戸村	同	聖王寺
同	同	善泉寺	島ノ郷村	同	藥王寺
生昌村	同	醫王寺	同	同	福藏院
同	同	照明寺	世良田村	同	清泉寺
寶泉村	同	延命寺	同	同	寶生寺
山田郡桐生町	同	圓滿寺	同	同	妙音寺
川内村	同	妙音寺	同	同	延命寺
菫川村	同	南光寺	勢多郡黒保根村	同	醫光寺
利根郡川田村	御室派	寶相院	佐波郡芝根村	高野派	常樂寺
多野郡藤岡町	同	玉泉寺	小野村	同	立石寺
同	同	光明寺	八幡村	同	安樂寺
同	同	慈眼寺	同	同	安樂寺
群馬郡瀧川村	同	同	同	同	同

口書にも在る如く、神聖幽邃の靈域にして、西川山主は戒清堅固の碩學高德なり

大類村

同

光明寺

同

同

安樂寺

密教名刹

三〇一

京ヶ島村(矢島) 中本寺 眼聖寺
 同 (元島名) 同 眼聖寺
 岩鼻村 地藏寺 普賢寺
 同 同 同 普賢寺
 念賀野町 養徳寺 福徳寺
 同 同 同 福徳寺
 同 莊嚴寺 如意寺
 同 同 同 如意寺
 塚澤村 不動寺 專福寺
 同 同 同 專福寺
 堤ヶ岡村 醫光寺 萬總寺
 同 同 同 萬總寺
 吾妻郡原町 願徳寺

新 義

佐波郡赤堀村 豐山派 滿徳寺
 同 同 西光寺
 同 同 能満寺
 剛志村 同 妙眞寺
 同 同 觀昌寺
 勢多郡荒祇村 同 日輪寺
 南橋村 同

玉村町 觀照寺
 宮郷村 寛徳院
 同 同 龍昌院
 同 同 花台寺
 同 同 金剛寺
 同 同 金剛寺

粕川村 同 西福寺 金胎寺
 群馬郡片岡村 同 清水寺 大乘寺
 同 同 石上寺 蓮華院
 碓氷郡安中町 同 妙光院 不動寺
 同 同 金剛寺 北野寺
 松井田町 同 増國寺 滿福寺
 九十九村 同 自性寺 普門寺
 同 同 持福寺 延命密院
 多野郡鬼石町 同 仙藏寺 金剛寺
 平井村 同 寶勝寺 常樂寺
 北甘樂郡新屋村 同 大慶寺 徳藏寺
 綿打村 同 全性寺 胎養寺
 同 同 福嚴寺 正願寺
 山田郡廣澤村 同 觀音院 成就院
 桐生町 同 永明寺 遍照寺
 赤羽村 同

大胡町 同 同
 堤ヶ岡村 同 同
 六郷村 同 同
 同 同 同
 後閑村 澤 同
 原市町 同 同
 磯部村 同 同
 森井町 同 同
 三波川村 派 同
 新田郡寶泉 同 同
 世良田村 同 同
 同 同 同
 休伯村 同 同
 邑樂郡小泉町 同 同
 六郷村 同 同

館林町	同	五寶寺	多々良村	同	常樂寺
大島村	同	吉祥寺	長柄村	同	明王院
渡瀬村	同	觀音寺	新田郡綿打村	智山派	長慶寺
同	同	圓福寺	多野郡神流村	同	觀音寺
三波川村	同	來迎寺	平井村	同	圓滿寺
新町	同	專福寺	勢多郡木ノ瀬村	同	蓮花寺
山田郡大間々町	同	光榮寺	前橋市芳町	豐山派	東福寺
同	智山派	清淨院	高崎市中紺屋町	豐山派	玉田寺

福島縣

常福寺(石城郡 赤井村) 智山派準別格本山

當寺は關伽井嶽に在り、嶽は磐城四郡の中央に高く、聳へ西北は連山波濤の如く、溪川奔流して進んで海に達し、東南は山河耕地を見降し、太平洋に面し、滄海渺々として眺望絶佳なり、山内には龍燈場あり、四ッ倉海上より毎夜數百の燈飛來して山頭に及ぶ之れを龍燈と稱し、日本無双の奇觀なり、本尊藥師如來は、往南天竺龍智菩薩の御作に

して菩薩四代の後善無畏三藏本朝養老年中尊像を齎し來つて、大和國鷲峯山源海阿闍梨に授け歸唐せり、源海瑠璃光山醫王寺を建て之を安置す、天平六年東國疫癘流行し、衆人困苦す、源海の弟子源德此事を聞傳へ、彼の如來を奉持し來り、當山西北の嶮ヶ峯に小堂を立て安置し、祈念すと云ふ、又其時書寫の經文を絶頂に埋む、今經塚峠と云ふは是れなり、厥後六十餘年を経て、徳大師彼の峯に詣てしに本尊の靈德猶新なるを拜す、然るに彼の峯は高秀雲を凌ぎ、常に西北の難風を蒙り、堂宇の破れ易きを察し、是に於て大師四方を歴覽し、堂地を今の處に卜し、以て堂閣を修造し、尊像を遷座せり、時に大同二年なり、誠に日域無双の靈佛、東國無比の名嶽なり、爾來變遷常なく、時に隆替ありと雖も、靈佛の威德は炳乎として變るなく、現住は前宗務長旭僧正にして、専ら寺門の興隆に勉め、上下の歸依篤く、賽者陸續として絶ゆることなし。

藥王寺(石城郡 藥寺村) 智山派

延壽山藥王寺と稱し、純瑜の所住を以て知らる、此寺は筑波の徳一法師奥州に遊び、八基山を開き、藥師如來の像を刻みて安置したるに始まる、明徳の此隆忠僧正住して、眞言宗となる、然るに平朝義之を黜けたるに、其曾孫に隆忠再誕して、先の因縁を知り、下

總見德寺鏡照の上足鏡祐を招して藥王寺に住せしめ、八基の田園を寄附して中興一世となし、大に寺觀を改め、陸奥百六十二ヶ寺を管せしむ、後に佐竹侯百石を寄附し、徳川氏より五十石の朱印を賜り、鳥居内藤牧野の祈願所となる、智山能化の祐宜先晉の兩能化は此寺に住し、糸玉鈔の著者なる純瑜は其第八世なり、明治戊辰の役に官軍の陣營となり、賊軍の爲に兵火に罹り、五十四宇皆灰燼となり、今僅に一字の堂を再建して、其遺跡を保存するに過ぎざるは大に惜むべきなり、騎獅の文殊菩薩木像、内藤能登守寄附、絹本着色の彌勒菩薩、中興第一世の所傳は國寶に列せられたり。

彌勒寺(若松市) 豊山派

本尊は阿彌陀如來、應永年間秀哉、武州より來りて開基し、阿波山龍華院と號す、上人は領主芦名盛政の歸依僧なるを以て祈願所となし、五百石を封ぜらる、九月盛政公より大般若經其他の什寶を寄附せられ、文龜元年盛高公より牛島田歩四千二束、苜寄附せらる、又元和二年蒲生忠卿母公より寺領五十石の寄附あり、元祿十六年保科正客より祈願料二十石を寄附せられたり、是より先、天正、延享、安永、慶應、近くは明治二十九年に火災に罹りたり、開基以來現住迄三十三代を経たり。

長隆寺(石城郡) 智山派

貞和年間城三越の館主長隆なるもの、慧哲を招じ、寺を營み、阿彌陀佛を納め、無量山阿彌陀院安養寺と稱せり、後天文年間石城郡玉山慧日寺雄仁中興するに及て、長隆寺と改む、國寶に指定せられたる地藏尊は安阿彌の彫刻なり、此地藏尊は城之越館主の鎌倉より相傳する故にして、貞享三年に當寺に移せりと云ふ。

八葉寺(河沼郡) 智山派

諸凌山八葉寺と稱す、醍醐天皇第二の皇子、空也上人の開基なり、本尊は阿彌陀如來なり、空也上人の念佛修業を爲して、廻道するに、路傍に骸骨あれば、之を集めて當山に埋むるを常としければ、今に會津高野山の名あり、往古は念佛宗の一派にして、頗る盛なりしも、今は眞言宗智山派に屬す、本尊を安置せる阿彌陀堂は保護建造物となれり。

如意輪寺(東白川郡) 智山派

本尊如意輪觀音は行基の作、聖務山持實院如意輪寺と稱し、奥州一ノ宮近津大明神の

別當職なり、後源義家賢範に討夷の祈禱を修せしめたる事あり、延寶年中仙臺南方棚倉相馬の觸頭となれり、天保年度に火災に遭ひて再建せり、明治に至て同所の覺乘院に合併して、如意輪寺と公稱す。

藥師寺 (南會津郡 田島町) 豊山派

本尊阿彌陀如來は行基菩薩の作、文治五年舊城主長沼宗政下野より移るに及んで藥師寺日海に藥師尊を奉安せしめて祈願所とせり、元龜二年醍醐無量壽院堯雅より灌頂道具を賜はるに及んで、本末の義を結ぶ、天正年間城主伊達氏に降るに及んで末寺を失ひ、寶曆年間談林所となれり。

不動寺 (伊達郡 湯野村) 豊山派

天長七年山階寺智興の建立する所にして、始め菩提寺と稱し、定額寺なりしが、幾多の變遷を経て、慶長中有傳に至り、不動寺に改め、大に寺門を興隆せり。

惠日寺 (石城郡 大野村) 智山派

本尊は大日如來、甚光山と號す、寺領田二十石、筑波山徳一終焉の地にして、古來著名の寺院たり。

其他の名利

新 義

信夫郡大笹生村	豊山派	大福寺	平野村	同	醫王寺
伊達郡保原町	同	長谷寺	富野村	同	新寶寺
安達郡玉井村	同	相應寺	澁川村	同	圓東寺
安積郡郡山町	同	如寶寺	西白河郡白河町	同	龍藏寺
田村郡守山村	同	觀音寺	同	同	金福寺
北會津郡館ノ内村	同	千葉寺	相馬郡松ヶ江村	同	歡喜寺
飯豊村	同	長命寺	小高町	同	金性寺
八澤村	同	寶藏寺	双葉郡幾世橋村	同	大聖寺
熊町町	同	遍照寺	大鹽村	同	清水寺
同	同	眞淨院	石城郡上遠野村	智山派	圓通寺

密教名利

西白河郡古關村	同	滿願寺	安達郡小濱町	同	梅木寺
石神村	同	泉龍寺	岩瀬郡鉾衝村	同	長樂寺
相馬郡大甕村	同	醫徳寺	上眞野村	同	安養寺
田村郡小野新町	同	極樂寺	三春町	同	眞照寺
久野濱村	同	寶泉寺	大久村	同	淨土寺
上岡村	同	圓成院	同	同	未續寺
木戸村	同	廣徳院	大久村	同	常光寺
母畑村	同	淨光寺	双葉郡苅野村	同	觀音寺
石川郡石川町	同	乘蓮寺	同	同	藥王寺
笹原村	同	東淨寺	高野村	同	藏光寺
東白川郡石井村	同	龍光寺	同	同	正覺院
玉川村	同	徳藏寺	江名村	同	眞福寺
平窪村	同	常勝院	窪田村	同	松山寺
赤井村	同	寶聚院	豐間村	同	密藏院
鮫川村	同	高藏寺	玉川村	同	遍照院

宮城縣

高藏寺 (伊具郡西根村) 智山派

弘法大師の開創、高藏寺の額は嵯峨天皇の御眞筆なりと傳ふ、本尊阿彌陀佛は徳一の作にして國寶に列せられ、金堂は平安朝の建築にして治承二年秀衡、建武二年に顯家の修補する所にて保護建造物たり、當寺は實に奥羽に於ける尤も古き名刹にして、屢々兵燹の災を免かれ、以て今日に及へり。

弘誓寺 (名取郡舘腰村) 智山派

弘法大師の開基にして、本尊觀世音も亦大師の作なりと云ふ、寛喜二年慈明房良賢、江州石山觀音の靈夢に感じ、當山に來り、興隆せしを以て、上人を中興第一世と爲す、慈明より現住に至るまで五十七世を經たり。

其他の名刹

新義

仙臺市東三番町	智山派	大聖寺	荒町	同	滿福寺
木ノ下町	同	國分寺	遠田郡田尻村	同	八幡寺
名取郡館腰村	同	眞福寺	岩沼町	同	竹駒寺
中田町	同	寶泉寺	下増田村	同	東光寺
伊具郡館矢間村	同	斗藏寺	刈田郡白川村	同	觀音寺
白石町	同	觀福寺	同	同	延命寺
宮村	同	蓮龍寺	大平村	同	威徳寺
桃生郡北村	同	箱泉寺	室戸村	同	醫生寺
亘理郡山下村	同	珠善寺	牡鹿郡石巻町	同	壽福寺
柴田郡大河原町	同	長勝寺	槻木村	同	大光院
栗原郡金成村	同	福王寺	志田郡大柿村	同	千寺寺
登米郡上沼村	同	彌勒寺	本吉郡大島村	同	光明寺

岩手縣

氣仙郡氣仙村 新義智山派 金剛寺 同 同 長圓寺

矢作村	同	圓城寺	同	同	觀音寺
横田村	同	常光寺	江刺郡稻瀬村	同	安樂寺
同	同	極樂寺	同	同	如意輪寺
伊出村	同	眞行寺	平泉村	同	智福院
西岩井郡永井村	同	醫王寺	東岩井郡藤澤村	同	圓融寺
八澤村	同	西光寺	大原村	同	司東庵
猿澤村	同	觀音寺			

青森縣

久渡寺(中津輕郡 清水村) 智山派

小澤の南方山中にありし、門前を坂元と呼ぶ、其地弘前を距る事正南一里十町、護國山の半腹にして、風景縣下第一と稱せらる、本尊聖觀音は慈覺大師の作、津輕家代々の祈願所たり、往昔は南津輕郡大鱈村阿闍羅山中に在りて興福寺と稱したりしを、圓智之を小澤村に移して、小澤山觀音院救度寺と改稱せり、後津輕藩祖爲信の命に依りて護國山觀音院久渡寺と改稱す、寛政四年一山燒亡、再興の業未だ竣らざるに文久三年再

ひ雪崩の爲めに壊倒せり。

其他の名刹

古義

南津輕郡藏館村 高野派 大圓寺

新義

中津輕郡大浦村	智山派	橋雲寺	南津輕郡碓ヶ關村	同	國上寺
東津輕郡横内村	同	常福院	弘前市	同	最勝院

山形縣

注連寺(東田川郡東村) 智山派

真然の開創にして、湯殿山根本執行別當注連密寺と稱し、奥羽著名の靈刹なり、本尊大日如來は弘法大師の作と傳ふ、久和四年兵燹に罹りて一山悉く灰燼となり、後ち慶長六年最上出羽守義光は三百石の寺領を寄附せられ、湯殿山表に執了別當として盛榮

を極めたりしが、元和八年最上家の没落に及びて寺領を返上し、同十二年酒井宮内大輔忠勝の祈願所と定められ、寺領五十石を得たり、明治維新に際し、一山の僧徒多くは復飾し、湯殿山は國幣小社に列せられ、年を追ふて衰頽し、刹へ明治二十一年五月祝融の災に觸れ、諸堂伽藍概ね焦土に歸し、今は僅かに十二間四面の本堂一字と、寛平法皇の寶軸の存するのみ、真然より現住に至る、まて七十六世を経たり。

大日坊(東田川郡村) 豊山派

注連寺の東半里の所に在り、金剛院瀧水寺大日坊と稱し、湯殿山の舊別當にして、當山四ヶ寺の一たり、本尊大日如來は大師の御作、寛永十八年徳川三代將軍の母公本堂を再建し、今尙古刹として著はる。

華藏院(西村山郡醍醐村) 智山派

神龜元年行運の創立にして、天仁元年奈良の願西再興し、後に高野山の弘僧あり、重覽の時に御室末となり、寶藏院(智山派)最上院(天台宗)と共に慈恩寺の一山總地たり。

法音寺(米澤市御廟町) 智山派

寺域に上杉家の廟あるを以て御廟町と呼ぶ、當時は米澤城二之丸に在りて、謙信公の廟を守護せしが、維新後今の地に移せるものなり、古くは越後魚沼郡長森の藤原にありて繁城と號したりと傳ふ、上杉長尾兩家に由緒深く中興能海より今日に及ぶまで有名の巨刹なりとす。

其他の名刹

新義

南置賜郡上長井村	豊山派	幸徳院	鹽井村	同	延徳寺
三澤村	同	龍性院	東置賜郡大塚村	同	國生寺
犬川村	同	千松寺	小松町	同	大光院
上郷村	同	西光寺	中郡村	同	證誠寺
同	同	成寶寺	同	同	福藏院
大塚村	同	高福寺	西置賜郡長井町	同	遍照寺
豊原村	同	恩徳院	豊田村	同	寶光院
長井町	同	正壽院	西村山郡五百川村	同	若宮寺

西田川郡湯田川村

同

長福寺

東置賜郡龜岡村

智山派

大聖寺

此れ智山前教學課長正田師の住する所にして、目下二萬圓を投じ改築中なり。

和田村	同	寶泉寺	同	同	萬徳院
上郷村	同	龍燈院	南置賜郡山上村	同	延壽院
同	同	成就院	萬世村	同	法持寺
東田川郡東村	同	本明寺	黒川村	同	法光院
西田川郡大泉村	同	井岡寺	上郷村	同	大經寺
同	同	宮泉寺	大泉村	同	圓藏院
鶴岡町	同	南岡寺	飽海郡酒田町	同	海向寺
同	同	龍巖寺	巖岡町	同	龍頭寺
東平田村	同	延命寺	高瀬村	同	劔積寺
米澤市	同	成就院			

秋田縣

一乘院(南秋田郡川尻村)智山派

密教名刹

佐竹氏義の亡ぶるや、遺言して、遺子虎千代丸を出家せしむ。虎千代之に従ひ、僧となり。海義と稱し、一寺を立つ。是れ吉田山佐竹寺一乘院にして、當時は常州久慈郡太田に創立せられたるものなり。天文九年海義醍醐山堯雅大僧正を屈して、入壇して松橋流を傳授せり。海義の孫弟宥義は小池坊に晋み、慶長七年第四世宥増の代に、佐竹義宣の移封に際して、今の地に遷り、義宣の子義繼宥増の門に入り、出家して阿證と稱し、仁和寺尊壽院の中興の祖となる。其縁を以て元祿年中運壽は仁和寺教王院を兼帶し、松橋流と仁和寺流とを合せ傳ふ。住職は佐竹氏の特選にして、現住まで二十七世を経たり。

其他の名刹

古義

平鹿郡沼館町 御室派 藏光院 由利郡平澤町 高野派 安樂寺
 小出村 同 遊仙寺 秋田市寺町 同 寶性寺

新義

南秋田郡五城目町 智山派 高性寺 川尻村 同 一乘院

豊川村	同	照明寺	南磯村	同	長樂寺
土崎港町	同	正善院	下川井村	同	實相院
仙北郡西明寺村	同	華光院	峯先川村	同	高善寺
山本郡鹿渡村	同	玉藏寺	平鹿郡角間川村	同	喜福院

新潟縣

國分寺(佐渡郡眞野村)智山派

聖武天皇の勅願建立にして、正安の頃雷火に焼け、再建し享祿二年大災に罹りて悉く焼けたるも、尙佐渡第一の名刹たるを失はず。

弘仁寺(佐渡郡羽茂村)智山派

弘法大師弘仁年間に佐渡に遊化し給ふ、時に行者啓道に會して靈地なりと聞き、乃ち伽藍を建て、新倉山弘仁寺と名け、藥師如來の尊像を安置す。其後辨英は蓮華峯寺の廢滅せんとするを救ひ、辨空の時に智山末となり、傳空は寺觀を一新し、現住迄六十四世連綿相續せる古刹なり。

蓮華峯寺(佐渡郡 小木町) 智山派

此の寺は弘法大師の開創する所にして、近世朱印九十石の田祿を有し、門前七十口の寺民を置き、位置海岸にして風光に富む、佐渡唯一の靈刹たり、承應元年住持快慶は辻俊信と共に官に叛き、諸堂を焼かれたるが、金堂弘法堂は残りて今保護建造物たり、智山移轉地にて高僧、海應、信海、道本等皆此寺に住せり。

慶宮寺(佐渡郡 畑野村) 豊山派

維新前までは一の宮明神の別當職たり、大同二年快空の開基にして、一宮明神は順徳上皇の第一皇女照姫慶子宮を祀れるものなり、皇女薨後追福の爲め、社の南隣なる當寺を神護山慶宮寺と改め、別當に補せり、寶永五年有應を中興の祖とし、第二十一世亮諦僧正の時に豊山末に轉ぜり、現今末寺三十六を有し、當國屈指の名刹なり。

長安寺(佐渡郡 明治村) 豊山派

陽雲山と號す、淳和天皇の御宇天長八年の創立にして、本尊は阿彌陀如來なり、順徳天

皇當國にあらせられたる際、陽雲山の宸翰を賜り懸額と爲す、天正中兵亂の際、本坊の外皆灰燼に歸し、其後幾多の變遷を経て、明治維新に及ぶ、當寺には有名の龍宮鐘あり、本尊と共に國寶に指定せらる。

清水寺(佐渡郡 新穂村) 豊山派

大同三年賢應の開基にして、本尊千手觀音は行基菩薩作、文元中本堂を再建し、佐渡國名刹の一たり、此寺は元と京都清水寺を移したるものなる由、快賢を中興とす。

長谷寺(佐渡郡 畑野村) 豊山派

大同三年の創立にして、其後興廢常なく、一時全たく衰滅せしが、文龜元年之を中興せり、行基菩薩の作たる木造十一面觀音の立像は彫刻物にして、近時國寶と爲れり。

法音寺(魚沼郡 城内村) 智山派

行基菩薩の開基にして、藤原不比等の子、政照、大に興隆せるを以て、其政照の法名たる法音を寺名と爲すと稱す、後賴朝尊氏、福島大炊寮の歸依を受け、又上杉家累代の歸依

を受け、寺領百二十石寄附せられ、次て坂戸城主堀丹後守より二十石を附せられ、徳川幕府より其儘御朱印を附せられ、文政年間には住持能堅嵯峨御所に參殿して、權僧正の口宣を受けたり、現住まで六十八代を經たりと云ふ。

國上寺(西蒲原郡 國上山) 豊山派

草創は元明天皇和銅二年彌彥大神の詫宜に依りて建立し、代々の勅願所たりしは、官府の古記に明なり、本尊上品上生の阿彌陀如來は、行基菩薩の作、當山を雲上山、靈高山又たは國上山と號す、其國上山と稱する所以は、孝謙天皇の勅宣に國中上一寺とのたまふに依るものなりと、昔聖德太子此山に登り雲上記を製作し、手づから大悲の像を安置し給ひしより、當國鎮護佛法最勝の靈地となれり、近世朱印寺領百石、當國第一の舊刹なり、明治十二年眞言宗に劃一制度を施きし大崎行智師は、此寺より出たり。

乙寶寺(化蒲原郡 乙村) 智山派

婆羅門僧正の開基なり、本尊大日如來は行基菩薩の作、近年國寶に指定せらる、大日堂仁王門は延享二年の修築、三重大塔は慶長十九年村上周防守忠勝の本願に依りて建

立せしものなり、徳川氏より百石の御朱印を受け居りたり、近頃智山能化教如大僧正は此寺より出づ、目下は僧正の高弟元博文館出版局長たりし内山正如師閑居せり。

福隆寺(北蒲原郡 分田村) 智山派

寺社山千平院と號し、蒲原第一番の札所を以て名を知らる、弘法大師の草創、本尊千手觀世音菩薩は行基菩薩の作、兩脇侍勝軍地藏、勝敵毘沙門の兩軀は弘法大師の作と傳ふ、往昔は數多の妨害を備へ舊寺領は五百石なり、元和二年高野山正智院の仙雅當寺を再興し、寛永十二年當國村上城主堀丹後守本尊の靈夢に感じ觀音堂を再建せられたり。

不動寺(中魚沼郡 岩澤村) 智山派

岩澤山不動寺と稱す、行基菩薩の開基、齊衡元年には鎮護國家の秘法を修し、源義家源頼朝出征の際及び元寇亂等に皆修法し、後に上杉謙信より水田五十石の寄附を受け、元祿五年にも鎮國の法を修し、寶曆二年五十一代決專の時代に五智院末となり、金剛院流を傳ひ、後祐慶の代に中性院を傳ひ、現住まで大約六十六世なり。

常泉寺(北魚沼郡 田川入村) 智山派

文明元年關照の開基する所、本尊阿彌陀如來は慧心僧都の筆にして、日本七幅の一なりと稱せらる。天正元年領主正信公當山本尊に歸依し、所領地百五十束蒔を寄附し、同五年自ら出家して常泉法師と呼び、當山の清流を繼承し、堂宇を再建して、唯稱山得稱院常泉寺と改む、其後現住まで卅八世を経たり。

五智院(北魚沼郡 小千谷町) 智山派

慶雲年中越泰澄の開創する所にして、昔は稗生村にあり有名なる大刹なりき、塔頭海龍庵なるものは戰國の勇士として干戈に従事したり、永享の比元慶代に兵火に會し、永祿七年唱慶蓮華谷に中興し、其後芳勝は智山能化に晋めり、近時保存金を下賜せられたり。

普光寺(南魚沼郡 浦佐村) 豊山派

當寺は平城天皇の御宇、大同二年坂上田村將軍の建立に係り、本尊毘沙門天像は印度

の佛工毘首羯磨の作なりと云ふ、當時法燈未だ盛ならざりしが降て凡そ四百年、承久三年(六百九十一年前)地頭平繁基僧道乘辨覺に任じて天王堂院主と爲すと共に、四至の令を下して、永代附近の殺生を禁斷せり、爾來武將領主の尊信歸依するもの多く、元享二年武藏の人鬼窪三郎左衛門貞満田壹町を奉進し冥福を祈られしを初めとし、藤原清信兵庫之助景實、降て上杉謙信同景勝公及び秀吉公帷幄の臣にして慶長年間當國坂戸の城主たりし堀丹後之守御父子等或は金幣或は寺領を賜はり、當時高五十石を領するに至れり、慶安元年將軍家光公從前諸將の寄せられし寺領を悉く交附せられ、更に諸役御免の令旨あり、明治維新に至るまで御朱印五拾石を領し、寺門隆々尊威赫々遠近に光被せり、現境域三千七百餘坪、堂塔伽藍總て十二棟、就中本村關市四郎氏單獨造營に係り、階下の天井には有名なる文晁の丸龍ある仁王門は結構壯麗、縣下無比の稱あり、舊仁王門は松平越後侯の建設する所にして、現今舊毘沙門堂の正面に移し、聖徳太子を安置せり、樓門より一條の廻廊數十間通して拜殿に至る、亦た毘沙門堂より本堂に通ずる廻樓數十間あり、共に明治十二年當山四十有餘世小野方教正の草創に係る、現今の本堂は延寶八年二十世賢弘再建に成りしものなり。

附記 當寺が本縣靈場の冠を以て稱さるゝに至りしは、代々住職の熱誠なる護法

心に因るものにして、就中延寶年間中興賢弘上人以來當寺に秀出せしものを弘賢（文政年間の住賢空）天保年間の住及び賢寶の數師となす、弘賢師は才學共に當時に顯はれ、初めて毘沙門天講社を組織し、四方の信徒を糾合して今日の盛運を開く、後昇進して江戸愛宕下眞福寺に轉ず、賢空師は當村藤島氏の出にして、その徳化の高きこと亦た比ぶるものなし、資を擲育撫養するものその數幾十に上り、當時遠近大小の寺院住職は悉く賢空の資あらざるなき有様なりし、前住小野方賢寶師も同じく賢空の資にして、慶應元年より師跡を襲ぎて普光寺を管す、明治六年より或は巡教に、或は講師に各地の巡回を命ぜられ、當時三條の教憲を奉じて、宗派に貢獻するもの前後十有餘箇年、維新の後新義兩派を雙腕に支えて、恢光の大業を遂げし一人として廣湖の等しく知る處にして、同師は本縣長岡市石井久兵衛氏の第二子にして、天保八年三月普光寺賢空室に投じて剃染、久しく豊山に遊學し、本寺に職に在ること約二十ヶ年、明治十七年一月病を得て遷化す、壽五十七著書安心撮要壹卷濟生祖訓壹卷神德皇恩說等數種現存す。

淳心寺

（中蒲原郡 巢本村） 御室派

華山院權大納言常雅郷の發願に依り、巢本村論瀨を開拓して、淳心法師と共に結庵す、之れ天正八年なり、後遂に一寺を創立して、圓通山淳心院と云ふ、之れ開基淳心師の名に因めるなり、後院號を改めて寺名と爲す、本尊は如意輪觀音にして、鎮守天滿天神も亦淳心寺内に在りて、淳心法師の鎮請する所なりと云ふ、當時植栽の大松三本、白檀樹及羅漢樹一本今猶存在せり。

西生寺

（三島郡 寺泊町） 智山派

海雲山龍泉院と號す、本尊阿彌陀如來は行基菩薩の作なり、弘安年中南都興福寺の住僧壽奎上人、當寺を再興せり、明應二年震災に堂塔破壊せるを弘秀之を修理す、當寺に弘智法師のミイラありて世に知らる、弘智法師は下總の人具戒修學の後、諸國巡錫の途次、當山に來りて入定せられたる者なり。

照明寺

（三島郡 寺泊町） 智山派

如意山と號し、北越三十三ヶ所の靈場、永承二年の開創なり、本尊正觀世音菩薩は弘法大師の作、堂宇は弘化年中の再建にして、明治三十五年増築修理す、地は山を負ひ海に

臨み眺望佳絶詣者常に絶えず。

大泉寺(中頸城郡米山村) 豊山派

越の大徳泰澄法師の開基にして、爾來源義家及び後には長尾爲景等の歸依篤く、諸堂を建立せられたり、現今の堂は上杉謙信の建立せし所にして、當時百五十石の朱印を附せられしが、上杉氏米澤へ移封せらるゝと共に寺僧多く隨ひ移りて、寺門頗る衰へたり、観音堂は現時保護建造物たり。

密藏院(中頸城郡黒川村) 豊山派

越の大徳泰澄が法力を以て米を飛ばし來りたりと稱する、有名なる米山薬師の別當なり、山名と同じく薬師如來も稻作の保護佛として尊崇せられ來れり、之れ他に類例なき異風なりとす。

其他の名刹

古義

中蒲原郡須田村	高野派	地藏院	巢本村	御室派	十輪寺
西蒲原郡太田村	同	西方寺	刈羽郡比角村	高野派	護摩堂
西頸城郡根知村	同	金藏院	糸魚川町	同	寶傳寺
能生町	同	光明院	岩船郡村上町	同	観音寺
新潟市東堀通十三番町	同	吉祥院			

新義

新潟縣中頸城郡直江津町	豊山派	泉藏院	源村	同	報恩寺
高田町	同	總持寺	米山町	同	慈眼寺
西頸城郡下早川村	同	日光寺	能生町	同	實相院
同	同	金剛院	浦木村	同	海岸寺
刈羽郡高田村	同	三諦寺	同	同	摩尼珠院
刈羽村	同	善照寺	同	同	金照院
同	同	寶藏寺	中鯖石村	同	清瀧寺
南鯖石村	同	福壽院	鯨波村	同	瀧泉寺

密教名刹

伊米ヶ崎村	五十澤村	同	小栗山村	南魚沼郡石打村	稗生村	川口村	同	同	小千谷町	劉羽郡石地町	同	五十公野村	村松町	猿橋村
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
遍照寺	正法寺	西珠院	善龍院	藥照寺	極樂寺	安養寺	不動院	澄光院	慈眼寺	眞藏院	寶持院	安樂寺	不動院	善能寺
北魚沼郡川袋村	大富村	同	城内村	六日町	川口村	同	千谷川村	小出町	同	北魚沼郡宇賀地村	岩船郡金局村	築地村	米倉村	聖籠村
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
圓福寺	養智院	長福寺	龜福寺	寶珠院	西藏院	寶積寺	眞福寺	圓福寺	成就院	弘誓寺	延命寺	海藏寺	普門院	觀音寺

吉井町	同	同	同	同	同	加茂村	同	同	同	同	眞野村	富貴龜村	上組村	眞人村
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
光輪寺	圓滿坊	胎藏寺	乘光坊	神宮寺	圓通寺	極樂寺	多聞寺	大慶寺	眞禪寺	西報寺	眞樂寺	西福寺	圓融寺	般若寺
赤泊村	同	二宮村	金泉村	同	同	新穗村	同	同	金澤村	畑野村	同	佐渡郡二宮村	東山村	古志郡下川西村
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
禪長寺	田中坊	蓮華院	多聞院	三諦坊	明王院	善光寺	世尊院	寶藏坊	正覺坊	玉林寺	隆昌院	長福寺	圓柳寺	來迎寺

密教名利

羽茂村	同	地藏院	西三川村	同	智寶坊
眞遮村	同	大光寺	新潟市	同	不動院

富山縣

日石寺(中新川郡大岩村) 高野派

富山市の東南六里の處に方位して山麓迄汽車を通ず、本尊不動明王は一大巖壁に座して、行基菩薩の作なり、故に大岩山自石寺と稱す、往昔は數多の坊舎ありしも火災に罹りしが、慶長の頃弘長なる僧來りて本尊に香花等供養し居りたる内に、舊加賀四代光高公若君なくて子祥を不動明王に祈りしに果して一子を生ず、是れ五代松雲院公にして幼名綱紀と稱せり、茲に於て三代前田利常孫出産の靈異を感じ、喜悅の餘り繼嗣意願の祈禱所として明曆の頃寺領を附し、不動堂等悉皆建立せらる、境内は百望一列能山越海寸眸に横たわり、殊に背後の山溪は奇石怪巖累々乎として數條の飛瀑處々に懸り、夏日の如きは涼を探るの雅客も續々登山し、殊に本尊不動明王に賽するものは、日々幾百を數ふべく、威靈新たにして、尊信北國に冠たり。

觀音寺(西礪波郡石動町) 高野派

白鳳七年法道上人の開基、寶幢院と稱す、弘法大師北巡の際留錫し、正觀音像を彫みて奉安す、後年木舟城主石黒氏の尊信篤く祈願所と爲し、又天正の頃前田秀繼(菅原朝臣)利秀等靈驗を蒙り、其石動に移城する際、當寺も亦之を移し、觀音寺と改め、永久祈願所と爲す、本尊及菅公直筆の肖像、世に尤も尊崇せらる。

其他の名刹

古 義

富山市梅澤町	高野派	眞興寺	高岡市關町	同	總持寺
旅籠町	同	敎學院	下新川郡西布施村	同	心蓮坊
同	同	光學坊	同	同	蓮藏坊
愛木村	同	法福寺	下野方村	同	實相院
山崎村	同	吉祥院	境村	同	護國寺
石田村	同	高峯寺	魚津町	同	花王寺
舟見町	同	十三寺	入善町	同	觀音寺
愛本村	同	千光寺	南保村	同	清水寺

密教名刹

中新川郡上殿村	同	日置寺	山加積村	同	本覺院
上新川郡濱黒崎村	同	泉福寺	大山村	同	寶壽院
大廣田村	同	寶集寺	堀川村	同	神宮寺
太田村	同	刀尾寺	船崎村	同	帝龍寺
月岡村	同	龍高寺	同	同	圓城院
婦負郡四方町	同	海禪寺	古里村	同	各朝寺
八幡村	同	吉祥寺	射水郡下村	同	福王寺
小杉町	同	蓮王寺	同	同	金胎寺
橋下條村	同	藥勝寺	野村	同	蓮華寺
下村	同	徳常院	水戸田村	同	密藏寺

石川縣の名刹

古義

珠州郡寶立村	高野派	法住寺	小木村	同	上目寺
木郎村	同	光明院	同	同	彌勒院

鳳至郡穴水町	同	來迎寺	清岡町	同	不動寺
町野村	同	金藏寺	同	同	滿泉寺
柳田村	同	法華寺	町野村	同	岩倉寺
同	同	佐野寺	同	同	高田寺
鵜川村	同	靈山寺	南志見村	同	西光寺
柳田村	同	平等寺	宇出津町	同	長樂寺
同	同	鹽谷寺	柳田村	同	本兩寺
中居村	同	明王院	羽咋郡南邑知村	同	遍照坊
熊野村	同	松尾寺	高濱町	同	常住院
鹿島郡能登郡村	同	長樂寺	鳥屋村	同	山田寺
瀧尾村	同	圓光寺	石川郡美川町	同	賢聖坊
能美郡粟津村	同	大王寺	山上村	同	集福寺
江沼郡那谷村	同	那谷寺			

密教名刹

本尊觀世音菩薩泰澄大徳の開基、始め自山嚴谷寺と稱し、後花山法皇御幸あり、西國三十三番の一番紀伊の那智と、終りの美濃の汲谷の二字を取り郡谷寺と名け給ふ。

山中村	同	醫王寺	金澤市野田寺町	同	寶集寺
觀音町	同	醫王院	野田寺町	同	伏見寺
千日町	同	雨寶寺	百姓町	同	寶幢寺
裏古寺町	同	養智院	子來町	同	寶泉坊
三ツ横町	同	眞福院	木ノ新保六番町	同	持明院

新 義

江沼郡山代村 智山派 藥王院

福井縣

羽賀寺(遠敷郡國富村) 東寺派

聖武天皇の神龜二年神鳥あり、此山頂に止り二の彩羽を剩して飛び去る、當國守拾つ

て之を帝に献ず、行基菩薩是れ鳳凰の羽なり、鳳世に現ずるは天下の祥瑞なりと奏す、帝叡感淺からず、鳳羽を賀して、寺を建て鳳聚山羽賀寺と稱す、十一面觀音の尊像を帝の等身に彫み、勅願の聖場となし、行基を開基となす、此像今國寶に列せらる、村上帝の天曆六年大雨灑ぎ、堂宇泥中に没せしを、翌二年雲居寺淨藏此國に來り泥中に大悲像を得、天開に達し、勅願を賜ひて、中興す、此時より眞言宗となり、後源頼朝は三重塔を建立し、延文四年朝佛なるもの願主となりて堂宇を修理す、此比より三井寺末となり、應永五年一山回祿の災に罹る、後小松帝義教に命じて修補す、此時粟田青蓮院に屬す、永享七年再び火災に會し、後花園天皇安倍康秀に造立を命ず、今日現存の本堂是れなり、寶徳二年定乗帥當山に住し、再び眞言門に復す、後柏原天皇大永二年勅あり、開帳を執行す、其後三十三年毎に開帳をなすを例となせり、其四年伊豫法眼に當山縁起を書せしめ、天正六年後陽成院は宸翰の縁起を納め賜ふ、今國寶に列せらる、其後朝廷將軍の歸依を得て今に及べり。

其他の名刹

古 義

密教名刹

坂井郡吉崎村	高野派	安樂寺	大野郡大野町	同	大寶寺
敦賀郡敦賀町	同	金前寺	東郷村	同	大藏寺
三方郡耳村	同	園林寺	八村	同	寶泉院
十村	同	大坊寺	西田村	同	慈眼寺
遠敷郡松永村	御室派	明通寺	遠敷村	大覺寺派	萬德寺
國富村	東寺派	小野寺	三宅村	高野派	天德寺
今富村	同	多田寺	同名田村	同	谷田寺
大飯郡青郷村	御室派	正壽院	同	同	地藏院
加斗村	同	飯盛寺	内浦村	同	正樂寺
坂井郡三國町	智山派	瀧谷寺	同	同	性海寺
丹生郡殿下村	同	愛染寺	下岬村	同	觀音寺
福井市川上	同	持寶院			

兵庫縣

新義

大龍寺 (神戸市地方口) 東寺派

再度山と稱し、諏訪山の背後に在り、神護景雲二年の創建にして、行基菩薩作、長三寸八分の如意輪觀音を安置せり、本堂の奥に大師堂あり、弘法大師の像を奉安し、毎月二十一日の賽日には群衆幾千の詣者あり、鐵楞山及鴨越の古戰場に近く、又奥平野に接し、夢野あり、會下山あり、神聖なる仙域を爲す。

福祥寺 (武庫郡須磨村) 高野派

須磨寺と呼び、寺寶に敦盛の青葉笛、辨慶の若木櫻の制札等あり、一の谷合戦と共に名高し。

妙法寺 (武庫郡須磨村) 高野派

鷹石山の西麓に在り、新鞍馬寺と稱す、本尊は行基菩薩の作毘沙門天なり、聖武天皇の勅願所にして、坊舎三十七を有し、頗る宏大なりしが、後衰頽し、承和年間定範上人の來住するに及び、之を再興して、稍々舊觀に復せり、黄檗の電雲和尚曾て此に住し、大に興

隆に盡せし事あり。

清澄寺(川邊郡小浜村)御室派

寛平五年宇多天皇佛工定圓に勅して、釋迦、彌陀、彌勒の三尊を刻ましめ、靜觀、益信の二僧に命じて、一精舎を草創せしむ、本尊大日如來は弘法大師の作なり、坂路峻嶮、寺内方丈の庭園は、支那盧園の風景を模せしものなりと云ふ、初め益信修法の時、三室荒神此に影向せられしとして、後世之を崇祀し、清荒神と稱す。

昆陽寺(川邊郡稲野村)高野派

天平五年行基菩薩の開基、本尊藥師如來、十一面觀音及び梵天帝釋の諸尊は、皆行基菩薩の作と稱す、行基菩薩初め此地に來り田を開き池を堀り、院家に施入して、鰥寡孤獨を救治せんが爲め、こゝに昆陽の庄を興し、其中央に伽藍を建立したるものにて、攝州第一の名刹なりしも、天正已後一千五百石の寺領を沒せられ、加ふるに天正の兵火に罹りて一山焦土と化し、其後古刹の遺跡に依りて、今の如く堂宇を營み、法燈をかゝげつゝあり。

中山寺(河邊郡尾村)御室派

西國第二十四番の札所にして、聖德太子の開基本尊十一面觀世音は、太子一代の守本尊と傳ふ、安徳天皇壽永の亂に兵火に罹り、其後賴朝公再興ありて源家の勅願所となり、堂宇輪奐を極めたりしも、應永の兵火に罹り、慶長八年秀頼公の本願にて、再び伽藍を建立せられたるもの現存せり。

滿願寺(河邊郡多田村)高野派

神秀山圓覺院と號す、神龜元年勝道の開創、本尊千手觀世音は、神龜年間此地自現の靈佛なり、天祿年中源滿仲大壇越となりて諸堂を造營し、其子源賢を以て中興の祖となす、爾來世々武家の祈願所として、足利の末年に至れり、後回祿の災に罹り、慶安年間再興する所ありしも、舊觀に復するに至らず、境内に多田源氏一門の古石塔を存す。

石龕寺(水上市郡小川村)高野派

用明天皇御宇聖德太子の開基、本尊毘沙門天は、聖德太子の作、村上天皇深く當山に歸

依ありて伽藍坊舎を建立し玉ふ、然るにその後安文、天正の交屢々兵火に罹り諸堂坊舎灰燼せり、仁王門道風自筆の額のみ今存せり。

國分寺(飾磨郡御)高野派

本堂山と號す、本尊は座像丈六の藥師佛なり、釋迦、彌陀、十一面觀音、大威德明王等は聖武帝の勅願に依りて行基菩薩の作と傳ふ。

犬寺(神崎郡)高野派

金樂山法樂寺と稱す、像起には二犬が其主を救ひたる故に全財産を抛て其二犬を祀らんが爲に寺を建てし事を誌せり。

淨土寺(加東郡山野村)高野派

初め行基菩薩の開創にして廣度寺と稱せしが、重源中興して極樂山淨土寺と改む、曾て一柳侯の祈願所となる重源建立の寶形屋根の金堂阿彌陀堂は保護建造物となり、絹本着色眞言宗八祖像八軸、阿彌陀三木三軀並に重源の像は國寶に列せらる、附近の

人亡者あれば必ず遺髮を堂に納むるを例となす。

周遍寺(加西郡九會村)高野派

白雉二年の創立にして、法道上人の開基なり、本尊如意輪觀音は法道の自作、御影堂の弘法大師の尊像は、大師の御自作と云ふ、外に四國八十八ヶ所の石造の刻佛あり。

千光寺(三原郡加茂村)高野派

延喜年中獵師大なる猪を射て、淡路中央なる先山の山中に逐ひ來るに、何ぞ鬪らん餘に射たる箭は千手觀音の御胸に立ちたりしかば發心して名を寂忍と改め、此所に寺を建立し千光寺と號したりと云ふ、後幾多の變遷あり、天正十年には秀吉高二百石を寄附し、又蜂須賀侯の祈願所として、其保護を受く、地風景に富み、今は西國の一番の札所として知らる。

其他の名刹

古義

神戸市兵庫西仲町

加納町 高野派 金光寺
高野派 聖徳院

下淀町
川邊郡長尾村

御室派 眞福寺
御室派 中山寺
準別格本山なり。

稲野村 高野派 正覺院

同 長尾村 同 一乘院

同 御室派 大空寺

同 同 華藏院

伊丹町 同 寶藏院

同 同 觀音院

中谷村 同 金剛院

同 同 萬正寺

小田村 小野派 善福寺

同 東寺派 安樂寺

園田村 同 慈眼院

有馬郡三輪村 高野派 圓安寺

八多村 同 治田寺

小野村 御室派 菩提寺

道場村 御室派 極樂寺

三田町 大覺寺派 感應寺

同 同 遍明院

武庫郡御影町 同 光明院

同 同 金心寺

田東村 高野派 理性院

西宮町 同 圓滿寺

良元村 同 東光寺

同 御室派 神呪寺

高野派 西南寺

同 金龍寺

同 成福院

西灘村 同 大乘院

同 回 蓮華院

同 同 王藏院

山田村 同 壽福寺

同 同 無動寺

同 同 萬福寺

東須磨村 同 勝福寺

同 同 淨徳寺

同 同 常福寺

瓦木村 同 法心寺

須磨村 同 正藏院

津名郡洲本町 大覺寺派 地藏寺

同 同 青蓮寺

同 同 千福寺

同 同 安覺寺

同 同 神光寺

同 御室派 西來寺

由良町 大覺寺派 心蓮寺

同 高野派 引攝寺

同 同 八幡寺

岩屋町 同 觀音寺

山田村 同 智禪寺

同 同 神泉寺

江井村 同 法華寺

同 同 本福寺

大町村 同 永樂寺

多賀村 同 廣生寺

尾崎村 同 長泉寺

密教名刹

三

三原郡福良町

室津村	御室派	海福寺	青波村	同	成樂寺
淺野村	同	妙應寺	富島村	同	生福寺
同	同	興久寺	野島村	同	真泉寺
同	同	福滿寺	鳥飼村	大覺寺派	東光寺
同	同	極樂寺	同	御室派	明法寺
廣石村	同	持明寺	鮎原村	高野派	藥王寺
同	大覺寺派	西泉寺	同	高野派	延長寺
同	同	龍雲寺	郡志村	同	長林寺
千草村	大覺寺派	滿泉寺	安平村	同	蓮華寺
中田村	高野派	寶生寺	同	同	多聞寺
生穗村	同	淨瀧寺	同	同	西明寺
佐野村	同	八淨寺	飯屋町	同	西念寺
蒲村	同	本福寺	同	御室派	妙觀寺
同	同	法導寺	仁井村	同	常隆寺
同	大覺寺派	慈眼寺	榎列村	同	賢光寺

同	同	神本寺	同	同	長福寺
同	同	榮福寺	同	同	威光寺
八木村	御室派	金剛寺	同	同	安樂寺
市村	大覺寺派	寶積寺	神代村	高野派	神代寺
同	同	延命寺	同	御室派	覺住寺
加美村	大覺寺派	護國寺	加茂村	高野派	千光寺
同	御室派	蓮光寺	同	同	盛光寺
同	大覺寺派	寶泉寺	大野村	御室派	觀音寺
同	高野派	寶蓮寺	同	大覺寺派	觀音寺
廣田村	同	大宮寺	倭文村	御室派	平等寺
同	高野派	安住寺	灘村	同	真觀寺
同	御室派	長谷寺	阿萬村	高野派	神宮寺
同	同	萬勝寺	湊村	御室派	智積寺
伊賀利村	大覺寺派	妙雲寺	阿那賀村	高野派	春日寺
松帆村	同	片寺	同	大覺寺派	威應寺

密教名利

水丘村	同	常樂寺	多可郡松井庄村	同	金藏寺
中村	同	量興寺	同	同	圓滿寺
日野村	同	西仙寺	同	同	妙覺寺
重春村	同	寶光寺	同	同	寶仙院
同	同	長明寺	比延庄村	同	安樂院
津萬村	同	西林寺	黑田庄村	同	莊嚴寺
加西郡多加野村	同	地藏院	同	同	不動院
北條町	同	酒見寺	九會村	同	百代寺
同	同	密藏院	同	同	理智院
印南郡上莊村	同	常樂寺	平莊村	同	報恩寺
神崎郡栗賀村	同	法樂寺	太山村	同	七寶寺
福崎村	同	作門寺	寺前村	同	最明寺
飾磨郡城北村	同	不動院	白濱村	同	八正寺
揖保郡網干町	御室派	林松寺	御津村	同	圓融寺
勝源村	同	大日寺	小宅寺	高野派	小宅寺

宍粟郡神野村	同	大勝寺	神戸村	同	神福寺
繁盛村	同	常樂寺	西谷村	同	安養寺
三河村	同	瑠璃寺	佐用郡三日月村	御室派	高藏寺
久崎村	同	清林寺	石井村	高野派	相應寺
平福村	御室派	光明寺	佐用村	同	慈山寺
赤穂郡鞍居村	東寺派	萬勝院	赤松村	同	松雲寺
同	同	西蓮寺	船坂村	高野派	金剛院
同	同	寶藏院	多紀郡大山村	同	大乘寺
水上郡葛野村	御室派	高山寺	鴨庄村	高野派	岩戸寺
竹田村	同	清菫寺	和田村	同	延命寺
小川村	同	石龕寺	朝來郡梁瀬村	同	樂音寺
栗鹿村	同	鹿藺寺	山口村	同	鷺原寺
中川村	同	正法寺	同	同	高峯寺
同	同	日輪寺	同	同	善隆寺
同	同	正法寺	生野町	同	延應寺

養父郡大屋村	同	山路寺	口大屋村	同	福王寺
同	同	蓮華寺	建屋村	同	大仙寺
廣谷村	同	蒲福寺	糸井村	同	隨泉寺
八鹿村	同	日光院	高輪村	同	高照寺
城崎郡八代村	同	大岡寺	城崎町	同	漫泉寺
國府村	同	長樂寺	竹野村	同	龍海寺
中竹野村	同	蓮華院	同	同	金龜院
口佐津村	同	長谷寺	長井村	同	遍照寺
香住村	同	大乘寺	同	同	長福寺
美方郡財添村	同	長樂寺	村岡町	同	善性寺
小代村	同	光明寺	溫泉村	同	善住寺
鬼塚村	同	安養寺	熊次村	御室派	日隆寺

岡山縣

蓮臺寺(兒島郡)御室派

準別格本山にして、瑜珈山蓮臺寺と稱し、關西唯一の巨刹なり、往昔聖武帝の時行基勅を奉じ、神託を受けて創立し、本地彌陀藥師の二尊を安置して、瑜珈大權現と號し、鎮守と崇め祀れり、御使には七拾五の白狐ありて靈威新なりと云ふ、亦靈木を以て本尊十、一面觀音を刻して之を納む、天正年中當國主宇喜田直家侯より寺領三百石、後池田公より五十石を寄附せられ、代々城主の歸依篤く、以て明治維新に及べり、本堂及客殿は保護建造物にして、其信徒數萬を以て算し、參拜の民衆絡繹今尙絶えず、讃岐の金刀比羅と相對す、中興増畔より現住まで七十世を経たり。

觀音寺(上道郡西)高野派

西大寺驛の南一里に在り、有名なる古刹にして、通稱西大寺と呼ぶ、二月十四五兩日の會陽には賽者數萬人に上り、遠く四國地より態々來詣するものあり、此等の賽者が競ふて眞木を取るは頗る奇觀なりとす。

遍照院(淺口郡)御室派

花山天皇の御願に依り、寛和元年智空の開基せし所なり、後延久年間後三條天皇の勅

願所に列せらる、中古毛利元就の祈願所となり、寺領九十石の寄附ありたり、其後備前池田侯の祈願所となり、寺領五十石を寄附せられる、永享年間の建築なる三重塔及び鐘樓は古建造物として現今保護建造物となれり、開基より現住まで三十世なり。

國分寺(窪庭郡三須村) 御室派

中世賀陽郡入田村郷に移轉したりしが、後又舊地に復したる者なりと傳ふ舊伽藍、舊寺の遺礎、石、埋藏の塚基等あり。

吉備寺(吉備郡箭田村) 御室派

天平七年吉備公の自ら建立する所なり、建武年間足別直義東上の際兵燹に罹り、堂宇舊記共に焼亡すと雖も、今猶ほ寺内に保存せらる古瓦柱礎に鑑みて、舊時の盛榮を知るべし、寶永四年藩主伊東氏より境内及山林御免地となり、其後樓門等の建立ありて、現時に及べり、本尊藥師如來は行基菩薩の作にして、吉備公の安置せられたるものなり、又寺の南方丘上に吉備公の墳墓あり。

其他の名刹

古 義

吉野村	御室派	大聖寺	福本村	同	長福寺
土居村	同	蓮華寺	江見村	同	佛法寺
巨勢村	同	顯密寺	西粟倉村	同	岩倉寺
東粟倉村	高野派	道仙寺	大原村	同	圓明寺
大野村	同	靈山寺	栗井村	同	圓福寺
勝田郡勝間田町	大覺寺派	眞福寺	同	御室派	東光寺
豐岡村	同	光明寺	梶並村	高野派	神宮寺
豐田村	大覺寺派	隨泉寺	同	御室派	西現寺
廣野村	同	清瀧寺	勝賀加茂村	高野派	新善光寺
廣戸村	同	五穀寺	同	御室派	愛染寺
小田村	同	極樂寺	郷村	高野派	福泉寺
大野村	同	吉祥寺	久田村	同	安養寺
西吉野村	同	國府臺寺	同	同	長雲寺

密教名刹

同	御室派	聖德寺	加茂	高野派	極樂寺
芳野村	御室派	寶性寺	院庄村	同	清眼寺
田邊村	大覺寺派	安養寺	一宮村	同	萬福寺
香々美南村	同	圓通寺	林田村	御室派	高福寺
久米郡倭文西村	高野派	江原寺	三保村	同	興禪寺
同	御室派	弘法寺	福渡寺	高野派	豐樂寺
龍川村	同	佛教寺	龍山村	同	清水寺
同	同	瑞泉院	大塚和村	同	兩山寺
真庭郡美和村	御室派	藥王寺	美甘村	大覺寺派	宇南寺
富源村	高野派	八幡寺	木山村	同	木山寺
同	同	勇山寺	津田村	同	普門村
美川村	同	遍照寺	同	同	清水寺
落合町	御室派	善福寺	勝山町	高野派	善光寺
美和村	御室派	普門寺	和氣郡片上町	高野派	華藏院
三石町	同	寶珠院	英保村	同	正光院

善

同	同	理珠院	伊里村	同	千手院
香登村	同	實相院	同	同	福壽院
同	同	西法院	赤磐郡鳥取上村	御室派	普門院
西高月村	同	圓壽院	仁堀村	同	極樂寺
邑久郡牛室町	高野派	眞光院	本庄村	同	安樂院
玉津村	同	朝日寺	裳掛村	同	專覺寺
國府村	御室派	正通寺	行幸村	同	寶壽院
同	高野派	慈眼院	福田村	同	圓福寺
鹿忍村	同	寶光寺	大宮村	同	遍明院
同	同	東壽院	上道郡西大寺町	同	普門院
芳野村	同	松壽院	同	同	無量壽院
雄神村	同	聚福院	同	同	持香院
同	同	鷺梅院	角山村	同	圓福寺
御休村	同	藥王寺	幡多村	同	恩德寺
同	同	長樂寺	財田村	同	本院

密教名刹

三二

古都村	同	慈眼院	金岡村	同	天神坊
御津郡御野村	御室派	法界院	石井村	高野派	常福寺
加茂村	御室派	宗林寺	兒島郡八濱町	醍醐派	金剛寺
日比町	高野派	觀音院	味野町	御室派	壽寶院
下津井町	同	圓福寺	郷内村	同	一等寺
同	同	西方寺	同	同	慈眼寺
同	同	大慈院	同	同	眞淨院
庄内村	高野派	持性院	同	同	正藏院
小田村	御室派	吉塔寺	胸上村	高野派	常樂院
田浦村	同	松林寺	本庄村	御室派	般若院
同	同	吉祥院	福田村	同	安樂院
同	同	持命院	同	同	般若寺
同	同	蓮華院	粒江村	同	西明院
藤戶村	同	藤戶寺	同	同	遍照院
阿哲郡新見町	醍醐派	青龍寺	野馳村	御室派	四王寺

豐永村	高野派	三尾寺	刑都村	同	圓通寺
矢神村	醍醐派	祥光寺	草間村	高野派	蓮臺寺
上房郡中井村	同	光林寺	中津井村	御室派	願成寺
水田村	同	遍照寺	同	同	延命寺
松山村	同	藥師院	同	同	松連寺
同	同	智導寺	巨瀬村	同	祇園寺
同	同	千柱寺	上有漢村	大覺寺派	臍帶寺
同	同	西福寺	川上郡高山村	御室派	淨明寺
成羽町	同	龍泉寺	同	同	實相院
同	同	西之坊	落合村	同	大福寺
吉備郡眞金村	同	普賢院	同	同	實生院
總社町	同	極樂寺	同	同	等覺寺
足守町	同	東漸寺	同	同	彌勒院
改興村	同	延壽院	同	同	能滿寺
同	同	觀音院	服部村	同	桂林坊

眞鍋島村	大覺寺派	圓福寺	北木島村	同	寶藏坊
神島外村	同	日光寺	同	同	開龍寺
陶山村	同	教積院	同	同	教藏院
同	同	常行院	今井村	同	正福院
大江村	同	明星院	稻倉村	同	西光寺
大井村	同	長法寺	吉田村	同	高稱寺
新山村	御室派	長福寺	山田村	同	小田寺
北川村	同	明王院	同	同	來迎院
中川村	同	西方院	山田村	同	極樂寺
同	同	觀蓮寺	三谷村	同	寶泉寺
同	同	觀照寺	同	同	佛種寺
同	同	國勝寺	美川村	同	醫王寺
美山村	同	高澤寺	後月郡高屋村	大覺寺派	高山寺
青野村	御室派	正覺院	西江源村	同	正雲寺
山野上村	同	千年院	同	同	智勝院

同	同	文殊院	水之子村	同	淨見寺
荏原村	同	佛眼寺	出部村	同	金敷寺
縣主村	同	金剛福寺	芳井村	同	十輪寺
共和村	同	吉祥寺	明治村	同	高仙寺
岡山市勢屋町	高野派	藥師院	同	同	金剛寺
網濱町	同	上生院	門田	御室派	大樂院
同	同	大福寺	國富	同	安住院
七日市町	同	最城院			

廣島縣

西國寺(尾道市 久保町) 御室派

摩尼山西國寺と稱す、行基の開基なるが、治暦二年燒失したり、然るに永保年中性信親王の法子慶鑊僧正白河帝の勅を受け再興し、正和元年第七世宥範の時に、尾道浦を知行すべしとの繪旨を賜はり、同三年勅願寺となり、現住まで四十三世を経たり、現存の三重塔は足利義教の建立にして、重寶中彫刻の釋迦如來の立像藥師如來の座像銅製

五股鈴は國寶に列せらる。

淨土寺(尾道市) 泉涌寺派

尾道市に於ける形勝の位置を占め、中國第一の巨刹にして、寺門の繁榮並びなく、西國寺と相對して双美と稱せらる。

千光寺(尾道市) 御室派

千光寺山の中腹に在り、千百餘年前の古刹なり、大室山と稱す、現時の堂宇は多田滿仲の再興せしものと云ふ、本尊は千年觀音なり、寺は石段を攀ぢて登ること數町、一平地に至れば懸崖に沿へる本堂あり、近くは向島の風景、遠くは伊豫讃岐の海濱を眺むべく、又玉の岩一に烏帽子岩と云ふものあり、高四十二尺、巾三十尺、昔岩上に明珠あり、夜々光つて海上を照らし、依つて尾道の海を玉の浦と稱し來りしと云ふ。

福禪寺(沼隈郡) 大覺寺派

堂宇古雅愛すべく、本尊は千手觀音にして、海中より出現せる靈佛なりと云ふ、開山は

空也上人にして、應和元年の創立なり、山水明媚風光絶勝、清人直國賞して日本第一の勝と云へり。

多聞院(廣島市) 御室派

臥虎山比治山公園の西麓に在り、松翠水映風色壯偉、位置好佳、市内第一の形勝を占め、賽者日々數千に上り、寺門頗る繁榮せり、境内に天下の名儒頼山陽一家の墓あり、展墓の人士亦絶ゆることなし。

不動院(廣島市外) 御室派

廣島上水道源地の北約十丁に在り、元安閑寺と稱し、天正の比僧惠瓊豊公に請ひて再興し、堂宇を天籟閣と號す、豊公征韓凱旋の際、藥師堂、仁王門、鐘樓の三字を朝鮮に移せりと、後福島氏入國に及び、不動明王を天籟閣に安置し、不動院と改む、今は特別保護建造物たり、寶物多く、瑩域に豊公遺髮の塔及惠瓊師武田刑部光和の墓あり、又瀑布あり、天籟の瀧と云ふ、風光頗る觀るべきなり。

樂音寺(豐田郡) 御室派

廣谷村	同	常福寺	服部村	大覺寺派	福盛寺
同	同	松本坊	福相村	同	福性院
江良村	同	廣徳院	中島村	同	最明寺
新市町	同	安養寺	國府村	同	圓福寺
同	同	法樂寺	御調郡三原町	御室派	正法寺
今津野村	同	圓光寺	栗原村	同	明光寺
三庄村	同	觀音寺	白島西村	同	神宮寺
田熊村	同	淨土寺	比婆郡東城町	同	法恩寺
同	同	學恩寺	庄源町	同	寶藏寺
敷信村	同	西光寺	同	同	成善寺
甲奴郡吉野村	同	法身院	階見村	同	長命寺
双三郡三次町	同	吉祥院	吉舎村	同	大樂寺
世羅郡甲山町	同	安樂院	同	同	福智院
神田村	同	寶生寺	豊田郡沼田東村	同	萬性寺
入野村	同	竹村寺	南方村	同	樂音寺

東生口村	同	藥師寺	加茂郡東志和村	同	並瀧寺
高田郡甲立村	同	理窓院	安佐郡龜山村	同	福王寺
佐伯郡嚴島町	同	大聖院	同	大覺寺派	大願寺
原村	御室派	極樂寺			
石内村	大覺寺派	金剛院			

準別格本山なり。

山口縣

妙福寺(玖珂郡岩國町)御室派

淋聖太子の念持佛不動明王を本尊とす、又太子の寶劍包録劍あり、又古來の父母恩重經を藏す、有部律の中興學如退隱の地なり、又徳川時代に至りては明僧天間獨立幽棲の地たり、其庭園は獨立の築きしものにして有名なりしも、現今衰頽を極めたり。

極樂寺(玖珂郡高森村)御室派

二井寺とも號す、天平十六年玖珂の大領秦皆足の創建にして、聖武天皇の勅願所たり

其後勅裁院宣等悉皆紛失せしを以て、後奈良天皇重て給旨を下して、代々勅願の靈場とせらる、一時毛利氏寺領二百石を附し、元祿七年岩國城主吉川廣紀當寺を重修せり。

鷺頭寺(郡下松渡郡)御室派

妙見菩薩の靈場、百濟國の琳聖太子海を航して、推古天皇五年に着し、後天智帝の朝、此地に妙見菩薩を祀る、今に至る迄千三百年、妙見菩薩の靈徳高く、古來賽者絶ゆることなく、防長密寺に於ける唯一の名刹なりとす。

其他の名刹

古義

玖珂郡柳井町	御室派	普慶寺	同	金剛寺
玖珂村	同	妙現寺	大島郡沖浦村	同
熊毛郡平生村	同	般若寺	郡濃郡富岡村	同
富田村	高野派	莊宮寺	末武南村	御室派
佐波郡防府町	高野派	國分寺	同	御室派

禮牟村	同	阿彌陀寺	中關村	醍醐派	普門寺
吉敷郡秋穂二島村	御室派	眞照院	同	同	戒定院
同	同	榮泰寺	山口町	同	神蓮寺
嘉川村	同	淨福寺	井關村	同	菩薩寺
名田島村	高野派	地藏院	秋穂村	同	禪定院
同	御室派	善城寺	同	同	遍明院
同	同	福樂寺	宮野村	同	清水寺
阿武郡萩町	同	滿願寺	同	同	弘法寺
厚狹郡藤山村	同	廣福寺	豊浦郡豊田上村	同	修禪寺
豊田下村	同	神上寺	豊西上村	同	安養寺
川橋村	同	三惠寺	下關市東南部町	高野派	國分寺
			別格本山なり。		
赤間町	東寺派	法興寺	岬ノ町	同	功德院
豊前田町	高野派	福仙寺			

島根縣の名刹

古義

松江市石橋町	大覺寺派	千手院	米子町	同	自性院
能義郡廣瀬町	同	巖倉寺	比田村	御室派	無量寺
八束郡來待村	大覺寺派	岩屋寺	古江村	同	成相寺
講武村	同	藥師院	本庄村	同	大通寺
意東村	同	宗昌寺	楫屋村	同	東泉寺
秋鹿村	同	高祖寺	竹矢村	同	迎接寺
大原郡海潮村	同	普賢院	日登村	御室派	滿福寺
仁多郡横田村	同	岩屋寺	飯石郡一宮村	同	普光寺
簸川郡川跡村	醍醐派	多福寺	知井宮村	大覺寺派	多聞院
高濱村	同	法靈寺	布智村	同	弘法寺
高松村	同	智光寺	安濃郡太田町	高野派	圓應寺
長久村	同	山倉寺	邇摩郡靜間村	同	安樂寺

鳥取縣の名刹

古義

福光村	御室派	楞嚴寺	井田村	同	高野寺
同	高野派	鷲峯寺	宅間村	同	波啼寺
邑智郡口羽村	同	延命寺	吾鄉村	同	彌勒寺
祖式村	同	圓福寺	中野村	同	西隆寺
川下村	同	甘南備寺	那賀郡石見村	同	多陀寺
下府村	同	光明寺	周布村	同	淨琳寺
三隅村	同	正法寺	都治村	醍醐派	快算院
海士郡海士村	東寺派	安國寺	知夫郡黒木村	同	長福寺

鳥取市湯所町	高野派	最勝院	南本寺町	同	寶珠院
八頭郡安部村	同	新興寺	明治村	同	觀音寺
大村	同	大安興寺	那岐村	同	極樂寺
富澤村	同	豐乘寺	大内村	同	西光寺

弘仁中弘法大師の草創にして、本尊薬師如来は弘法大師の作、平城太上天皇、嵯峨天皇、淳和天皇等は深く當寺を歸依あらせられて、官寺となせり、後ち文治四年火災に罹り、堂宇悉く焼失す、後鳥羽院は御厄除の勅を下して、伽藍を再建あらせられたり、其後屢火災に罹り、幾多の變遷を經、今の本堂は明治三十一年の建立なり。

童學寺(名西郡石井町)小野派

東明山大谷院と稱す、本尊薬師如来は弘法大師作、往昔弘法大師當時に於て、學問習字せられしを以て、名けて童學寺と云ふ、現在の堂は正和元年大領主津茂松家兩氏の建立する所なり。

雲邊寺(三好郡馬地村)御室派

阿讃の界なる雲邊嶺上にあり、巨贅山雲邊寺と稱す、本尊は十一面觀音にして、弘法大師の開創と傳ふ、峰巒重疊して穹窿相接し、諸峰聳ゆ、雲邊の名空からず、巨贅山雲邊寺の六字は弘法大師の書なり。

鶴林寺(勝浦郡比奈村)高野派

四國第二十番の靈場、弘法大師鶴の守護たる地藏尊を胎内佛として、三尺の地藏尊を彫みて、安置せる故に、鶴林寺と稱すと、太龍山と相對する高山にして、之を兩部の山と稱す、蜂須賀家の祈願所として、田祿五十石を寄附せられ居たり。

靈山寺(板野郡板東村)高野派

人皇五十二代、嵯峨天皇勅願の道場にして、弘仁七年彌生の頃高祖弘法大師無比の御誓願を發し、邊地異域を跋躋し、末世の衆生濟度の爲め、四國八十八ヶ所御開創發願の御砌、佛祖釋尊の御聖徳を追懷し給ひ、決然拈据晝夜沐浴、一刀三禮、躬ら御丈四尺の釋迦如来御尊像を彫刻し、所謂天竺の靈山を和國に移すの趣旨に因みて、竺和山靈山寺の號を附し、即ち當所に七塔伽藍を建立し、四國靈場第一番の札始めと定め給ふ、此に至つて大師の曰く、四國靈場爲參拜者先第一番可拜而第一番願敗之不許と古書今に傳ふ、御開創以來今日まで一千有余歳を歴たる古刹なり、近くは明治二十八年八月大勳位山階宮晃親王殿下の御自筆になる、四國第一番の靈場の御額、御下賜ありし靈場なり。

本堂は弘仁年間の建立にして、中古美術の典型たる莊麗無比の建造物なりしを、一千

餘年の久しき間屢々兵亂あり終に天正年間四國の豪族長曾我部元親三好長慶等會々干戈を交ゆるに際し此地一帶兵火に燒盡せしが其後一部信徒相圖り僅に雨露を凌ぐの假堂を建て以て今日に至れり又方丈の如きも明治二十四年五月通夜堂より失火して悉く烏有に歸せり茲に於て現住元山智道師は第一番靈場に耻ぢざるの再建を企て目下努力中なれば不日輪奐の美を観るに至るべし。

極樂寺

(板野郡板東村) 高野派

日照山極樂寺と稱し四國第二番の靈場なり弘法大師の創製する所にして本尊は大師自作の阿彌陀佛藥師如來觀世音菩薩の三尊なり地は三面山に倚り岩高く林茂り一門東に向ひ谷廣く水清し日照山と云ふ實に其名に乖かず又堂前に龍地芙蓉沼あり曾て辨財天瑠璃光佛の現像示現ありしと云ふ風光幽雅實に無双の神境靈域たり弘法大師曾て此山に登り大仙遊舎の地なり海内容易に求むべからずと歎賞せられしと傳ふるを以て見れば如何に其絶勝なるかを知るに足らん殊に本尊の靈驗威徳は千秋萬古赫々として變ることなく賽者絡繹として日に絶へず寺門の隆榮月に盛なり。

寶珠寺

(板野郡重浦村) 高野派

現稱如意山寶珠寺は疇昔醫王山藥王寺と稱し阿波國板野郡里浦村四四六地樹木崑石人家蘊歛淡霞微忙長烟一空丁汀曲浦潮來夕映瑞雲山蔽芭蕉翁謂く時雨けり晴れけり淡路生れけりと矚目の清新なること恰も仙寰の如き字花面にあり實にや過ぐる和銅元年の陽春高僧行基諸國行脚の途次此地に來り明眉の山水に眷戀の餘禪衣を妙見山頭の松風に翻し洪懷を吹上濱の濤聲に澄まし玉ふて謂く嗚呼浪の音も松風も幽かに啼き渡る鷗の聲も聞くもの總て清新此世ながらの密教國土唯佛與佛の境界なり願くば袍を大礮の巖頭に振ひ海風蓬々たる彼天邊に嘯かば我胸如何に安すかるべき我れに大願のあるなくんば永く此地に奄留して鳴門の海濶と化しても死なばやとまで激賞せられたるの靈蹟なり本尊藥師如來は和銅元年行基菩薩此地に奄留中當山藥壺谷の靈木を採り一刀三禮の丹誠を抽んじて彫刻せられし尊像にして往昔古城山益田飛驒守の歸仰篤く日和佐藥王寺の本尊と共に一木二體の靈像と稱せられ靈驗炳焉尊信日に月に盛なり。

箸藏村

同

箸藏寺

準別格本山なり。

三庄村

同

舞寺

同

同

興聖寺

佐馬地村

大覺寺派

八幡寺

同

同

圓明坊

池田町

同

蓮華寺

名東郡佐波河内村

御室派

長願寺

國府町

御室派

千福寺

新居村

高野派

密嚴寺

佐那河内村

御室派

寶藏寺

同

同

國中寺

加茂村

大覺寺派

藥師寺

八萬村

御室派

長久寺

名西郡石井町

大覺寺派

蓮光寺

神領村

大覺寺派

神宮寺

同

同

德藏寺

同

同

寶幢寺

下分上山村

高野派

西光寺

神領村

同

長滿寺

麻植郡川島町

御室派

長樂寺

西尾村

同

持福寺

木屋平村

大覺寺派

龍光寺

川田村

大覺寺派

高越寺

同

同

福生寺

山瀬村

高野派

西法寺

美馬郡穴吹村

大覺寺派

享保寺

脇町

同

最明寺

三島村

同

本樂寺

岩倉村

同

大瀧寺

石井町

同

地福寺

藍畑村

御室派

善福寺

高原村

同

性福寺

上分上山村

大覺寺派

妙德寺

鬼籠野村

同

神光寺

同

大覺寺派

眞福寺

中技村

御室派

報恩寺

同

高野派

重樂寺

三山村

同

明光寺

同

同

醫光寺

那里村

同

眞樂寺

貞光町

御室派

眞光寺

西祖谷山村

大覺寺派

安樂寺

半田村

御室派

神宮寺

半田奥山村	同	多聞寺	端山村	大覺寺派	西福寺
同	御室派	東福寺	一字村	同	西福寺
同	同	寶珠寺	同	同	定光寺
勝浦郡小松島町	大覺寺派	地藏寺	生比奈村	御室派	善入寺
同	高野派	慈林寺	同	同	神宮寺
棚野村	同	長福寺	多家良村	大覺寺派	如意輪寺
同	高野派	青蓮院	高鋒村	同	普門寺
那賀郡富岡村	同	正福寺	平島村	同	西光寺
中野島村	同	隆禪寺	椿村	同	福藏寺
相生村	同	正光寺	平島村	同	神宮寺
同	同	寶滿寺	羽ノ浦村	同	取星寺
見能林村	同	地藏寺	同	同	千福寺
同	同	長善寺	同	同	眞福寺
橋浦村	同	光明寺	桑野村	同	蓮光寺
延野村	同	萬福寺	同	同	瀧寺

坂洲木頭村	同	黒瀧寺	海部郡穴喰村	同	大日寺
牟岐村	同	滿徳寺	月和佐町	大覺寺派	觀音寺
上木頭村	高野派	瑞傳寺	上木頭村	同	妙法寺
赤河内村	大覺寺派	圓通寺	同	同	打越寺

高知縣

種間寺(吾川郡秋山村)大覺寺派

本尾山朱雀院と號し、本尊藥師如來は唐土佛師の作、聖德太子の草創にして、貞觀年中栗田關白道兼公の嫡子信衡此國へ配流せられし折に、再興ありて、靈驗世に知られければ、遂に村上帝の勅願所となる、堂宇は忠義公の改修にかゝるものにして、古事談十訓抄に記されたる著名の古刹たり、四國靈場第三十四番なり。

金剛頂寺(安藝郡室戸町)豊山派

四國廿六番の札所龍頭山光明院と稱し、又最御崎寺を東寺と呼ぶに對して西寺とも云ふ、弘法大師の開基にして、古昔は金剛定寺と號せり、本尊藥師如來は大師の作、嵯峨

淳和以下の勅願所にして、寺領三千五百石を賜ふ、文明十一年同録に罹り、同十八年金堂新に成り、根來山道瑜を聘して大曼荼羅供を修せり、明治三十二年十一月再び祝融に罹りて、烏有に歸し、金堂は先年再建せらる。

竹林寺(長岡郡五山村) 智山派

俗に土佐の文殊と唱へ、通稱は五臺山に在るを以て五臺山と云ふ、天平年中の創基、本尊文殊菩薩は福智妙應の靈佛にして、往昔聖武天皇瑞夢に感じ、行基菩薩に勅して其像を刻ましめ給ふ所、佛堂は寛永二年炎上、同年藩主忠義公重建せられ、今文殊堂は保護建造物たり、四國第三十一番の靈場なり。

國分寺(長岡郡國府村) 智山派

摩尼山寶藏院と號し、現今の堂塔は、天平年中、勅建のものにして、寛永十年山内公の再興せられたるものなり。

金剛福寺(幡多郡清松村) 豊山派

足摺山と號す、弘仁年中弘法大師の草創せし所にして、四國第三十八番の靈場なり、源家代々の歸依あり、就中多田の滿仲は、清和天皇御菩提の爲め、當寺に多寶塔を建立し、賴光は諸伽藍を重修せり、その後山内公土佐を領するに及びて、寺領百石を給せらる、境内に天燈の松、龍燈の松、力の石等二十一種の奇蹟ありて世に知らる。

其他の名利

古 義

高知市中島町	高野派	高野寺	安登郡野根村	同	法喜院
香美郡前濱村	大覺寺派	實生寺	長岡郡吉野村	御室派	金剛寺
幡多郡貝同村	高野派	金生院	田ノ村	同	圓明寺

新 義

高岡郡宇佐村	豊山派	青龍寺	十市村	同	禪師峯寺
高岡町	同	清瀧寺	土佐郡江口町	同	安樂寺
香美郡夜須村	同	常住寺	岸本村	智山派	寶儀院

密教名刹